野津原方言集

续编三

野津原方言集　『続編No.３』

ご協力頂いた皆さん　首藤チエ　永富　忠　佐藤良一
加藤正人　川西哲男　三ヶ尻政夫

……

題字……田口　勲
挿し絵……松本英明
カット……那須政子

……

◇◇◇◇◇野津原方言調査会◇◇◇◇◇
調査員　甲斐英行　利光節子　佐藤吉晴　小野寿祐
那須政子　赤星ヨシミ　佐藤源治

編集　構成…野津原方言調査会　会長…甲斐英行
プリンター……佐藤源治
監修　製本……小野寿祐

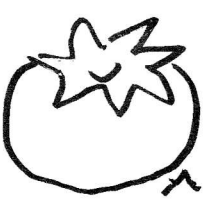
◇◇◇平成１３年４月１日◇◇◇
野津原方言調査会…☎０９７…５８９…２８０７
事務局……☎０９７…５８８…００９２

はじめに

野津原方言集『続編№３』を発行するにあたり　多くの皆さんから沢山の資料を頂き　誠にありがとうございました。平成１０年に『３セット』を発刊しました　方言集の編集で調査した分を含めて　盛り込めなかった資料が沢山あり　発行の趣旨が温かい方言を記録に残すのが目的ですので　出来るだけ大切に『続編５』までに納めたいと思いつつ　毎回《毎年》限定１００冊ながら調査員が余暇を利用しつつ取り組んで参りました。

№３には方言単語の追加も入りました。１…方言文化では子供を中心にした『方言文化』を。
２…ふるさとの唄　歌には新しい歌も可成り入っていますが　野津原を大事に歌い込んでくれた　気持ちを大切にしたいからです。
３…心に残る清正公まつりでは　江戸期の領主であった加藤清正の人となりが　まつりを通じて今も生きている。その波及効果や周りの人たちの　祭りに寄せる心情も盛り込み　人の心の絆　めぐりあわせを永久に残したいと思います。
４…心の残るふるさと方言は　私たちの一番残したい方言をうまく取り入れた　人情　ふるさとを愛する優しさを主軸に　若い人たちの心情をヨコ糸に綴りました。

５…伝承　民話　語りべの場面には　お年寄りが口もとに笑みをうかべて　苦労隠した語らいなどを取り入れたもの。人と人が助けあい支えあった古きよき時代を　垣間見る想いもします。
６…毎回途場する街道の人気者　馬子の五助さんは　おしゃべり名人。アクのない語り口で今回も街道と言う　舞台にさまざまな人を途場させて　時には悲しく時にはユーモラスに話してくれました。ひげ面にたばこふかした姿は自然が豊かな　ふるさとの絵にもなります。

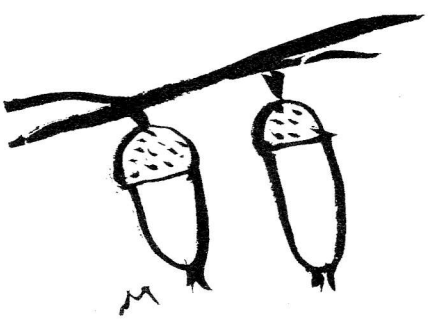


約１００ページの中に盛り込まれた　調査員の足と口と筆でまとめた原稿には　多くの町内外の人たちの協力支援が　込められています。平成４年から続けて１０年目の　№３もおかげで素人づくりですが発行出来ました。専門書ではない土の匂いがする汗臭い　母親の乳の香りがするような　とも言われます。

読んでくださる皆さんがいるから　励まされながらここまで辿りつきました。あと二回《二年》折角の予定は是非貫きたいとない知恵を絞り限られた時間と経費で　形に残す方言集がこれから先　もしこの種の研究でもされる方たちの　参考にでもなればこの上ない幸せです。

今回もご愛読頂きまして誠にありがとうございました。発行に当たりご支援ご協力頂いた　皆さんに厚くお礼を申しあげます。

★　今回は別冊として　特に町教育委員会のご支援で　小学生中学生向きの『やさしい肥後街道の方言ガイド』も　発刊いたしました。町内の関係生徒さんには全員にさしあげましたので　方言に対する親近感も抱いてくださったと　信じています。お役にたったとすればこの上ない喜びです。



★★★　もくじ　★★★

表題　協力者お名前……1
はじめに……2
スタッフ……3
目次……4

★…方言文化《子供　生活》

おおきに　うれしい……7
ドンドン様とカヤの中……8
柱松送り火……9

★…ふるさとの唄　歌

テマリ唄……11
しない踊り……13
ほうちょぬべぬべ……15
おもや会の唄……17
いっぺんきちょくれ……17
野津原神社　七五三……18
見あげれば……18
七瀬帰帆……19
猫おどり……20
府内藩から肥後領へ……20

★…心に残る清正公まつり

清正公まつり……21

★…心に残るふるさと方言

ランプん下ん針仕事…30
なば山ん心なごむ……31
子供ん使い……32
情けは人の為ならず…33
二人ん夢……34
やんどうまいど……35
回って帰った情け……37
じゃき好きで……39

★…伝承　民話　語りべ

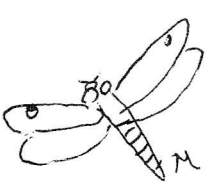
旗立て場……42
鍬についた泥……44
盆踊り……45
水車小屋……47
神　仏　遍路……49

★…ほうげん単語

方言単語……52

★…ちょつと一服

七草　天気予報……61
電柱　洗たくリサイクル
生理帯　方言イベント……
ヤセウマ……62



江戸期ん灯……６３
参勤交代徒歩の旅……
方言放送から……６４

★　馬子歌街道ばやし

白山雨乞い……６６
街道あきないくらべ…６８
農村の四季の食べ物…７１
鈴が滝ん恋……７２
母のくれた膏薬……７３
迎えに来た夫……７４

★　方言単語　№２

方言単語……７８

★　ちょつと一服

ちょつといっぷく……８６

★　民話　伝承　語りべ　№２

うどんのご馳走……８９
お礼にくれたナンテン…９０
きなこオハギ　卵ん吸い物…
９１
待ちごえ……９２
マユゲン殿様……９３
祭り餅ん里帰り……９４

★　こぼればなし

調査会員の一口コメント……
９６

★　あとがき

調査あれこれ……９９

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

方言文化

供子生涯

『おおきに　うれしい　おおきに』

戦後の物がねぇ　それがどんくれー切ねえもんか。父親が戦死しち　オカチャンが苦労しよるぬ　子供心にん見りゃ解る。学校かる帰るとそん親にちっとでん　加勢しゅうち思うが子供んそりゃ知れちょる。皆んなそげん時代じゃつたけんど　主なしが戦死すりゃ世間の風あたりも強ぅなっちくる。

『あい　こんだあんたにやるで』　学校かる帰っち畑ん草取りぅしよった時じゃつた。近所ん若いしが板切れじ作った『筆入れ』を差いでーちくれた。『うっとぅにえー』ちょいとたまがったが　そん時ん嬉しかったなーいつまでん　忘るるこたー出来ん。カバンに鉛筆を紙に巻いち学校に通ぅた　もうそりゅうせんじいい。

『なかなか作るにひまがいったきな』　笑いながらくれた筆入れにゃ　おろいい紙じゃけんど貼っち　可愛い絵が書いちゃる。やっぱ『うっとうにもくれた…忘れんじゃつたんじゃろう』　近ごろ皆んな貰いよるち聞いちょつたき。ひょいとすりゃ…そげな事も思わんこたーなかったけんど…とてんくれめーとん。

コトコトカバンの中じ音が鳴る　筆入れが机ん上じマブシイごつ光っち　皆が『どげーしたんな』ち。『おーきに　うれしい　おおきに』　今でんそん人は　こん言葉を心ん中じ言い続けよる。

★　どんくれー…どのくらい。オカチャン…お母さん。そげん…そんな。じゃつた…でした。あんたにやるで…あなたにあげます。そりゅうせんじ…それをしなくても。いったき…時間がかかった。おろいい…粗末な。じゃつたんじゃろう…なかったのでしょう。貰いよるち…貰っていると。どげーしたんな…どうしたのですか。

『ドンド様と蚊帳の中』

子供ん『ままごと遊び』ん最中に　西ん空が曇ったち思うちょったら　ノキ大粒ん雨がツボぅ叩きまえーち降りでえーた。早ぅおすゴザを引きずりこみよせん　ちし崩すごつ降りでーた。折角作ったご馳走『カンナん花がシソん葉に』巻かれたが　バラバラになっちしもぅた。やんがちピカッち光ったかち思うと　ドドングワラグワラ……そりゃもう激しぅ降りでーた。

『早ぅ蚊帳にへーらんとヘス取らるるど』　タバコぅくわえた口かる　怒るとん笑うとん解らん声が。そげんことどころじゃねぇ。そこらへんぬ飛びこえち蚊帳に入った。『桑原　桑原』年寄りしがゆう言うき　そんまま真似ち言うと落ちちいた。ツボ先にゃ泥水がいっぱい流れち　さいでんまじした『ままごと遊び』が　嘘んごたる。『アラレぅ食うか』『食う』元気なもんじ食うこたー忘れんごたる。

いっときすりゃ風が出ち雲が切れた。大降りが嘘んごつ止むと西がすいち　天気になっちきた。子供が蚊帳をかむぎあぐると首ぅ出えち　『もういいど』ち言うぬー待つちょる。『ジリビヤキぅ食いなー』　いつんなかめーかバァサンガ焼いたんじゃろぅ。黒砂糖をぬたくったんが手塩皿に並んじょる。『食うちかるまた遊べや』『うん』　顔見合わせち歯をむっくり出えち皆な笑うた。

★　思うちょったら…思っていたら。ツボ…庭。叩きまえーち…叩きながら。やんがち…やがて。そりゃーもう…それはとても。へーらんと…入らないと。ヘス…ヘソ。怒るとん…怒るような。そげんことどころ…そんな事どころか。そこらへんぬ…そこらあたり。桑原桑原…雷が嫌いな言葉。さいでん…さっきまで。あられ…小さく刻んだ干し餅。ジリビヤキ…粉を軟く焼いた食べ物。ぬたくった…塗りまわした。ノキ…急に。手塩皿…小皿。

『柱松に送り灯こめて』

五助さんが今日は柱松作っちくるるき　若いしん中ぇ子供も集まつた。『ゆう覚えちょけや　もう永ぅは作れんきの』『そげー言わんでんいいじゃねーな』『お前どういつまでん人ぅ宛にするきどんこんならん』　手元は休めんじ加勢する五助さんな　荷物が今日はねーき馬もよこわせちょる。

『柱松ちゃどげな意味があんのな』『やんどどー知らんのか』五助さんも本当んこたー知らんけんど　大体んこたー聞き伝えぅ知っちょつた。『ほんなまぁ話すわい』　五助さんなチヨィトたばこぅ　たばこ入れかる摘みでーち話はじめた。いろいろ理屈はあるんじゃろうが　盆行事ん一つんもんらしい。

盆の１６日は送り火を家内じするけんど　それも出来んしもあるかん知れん。じゃき村中が《当時の村ち言うと１０軒くらいのもあったじゃろう》みんなじ見送るのん　いいんじゃねぇ。となりゃ大けな火をひとところじ燃いち。ほんな高ぅしち皆が見ゆるごつも。それがいつんなかめーか柱松んごつなった。

先祖が墓地《極楽浄土》に帰るんぬ皆じ見送る　そん道明かりにすりゃち始めたんじゃ。柱松を作るに子供がするなー大人かる習ういい機会。そりゅう受け継いじ行く素朴な行事が　お互いに助けあい支え合うこちい。習うよりも慣りーち言う事じゃ。しゃんとやれや。

★　くるるき…くれるから。若えし…若い人。覚えちょけ…覚えなさい。そげー…そんなに。お前どう…お前たち。よこわせ…休んで。あんのな…あるの。やんどどぅ…皆さん。もんらしい…そのようです。じゃき…ですから。いつんなかめーか…いつのまにか。すりゃち…すればと。しゃんと…しっかり。

野津原方言

ふるさとの唄歌

故郷の唄　『テマリ唄』

おしろのさん　おんさま在所が　イッチョゴで　おかごで　イッチョサノサ　さしたかどん　しのぶかどん　ドンドと鳴るのは　ドロガミさーまか　イッチゴデ　おかごで　さしたかどん

しろきやの　おこまさん　さいださん　たばこのけむりで１８歳　ヒー　フー　ミー　ヨー　イツ　ムウ　ナナ　ヤー　ココトー　たばこのけむりで　１８歳。

この唄は　テマリ唄としち古ぅかる　主に肥後領区域じ唄われちったごたるが　たまたま民謡発掘されよった　故加藤正人さんの調査した　杵築市でん　あい通ずる『テマリ唄』が　あったぬぅ野津原じ調査に協力した時ぃ　聞いた記録があった。

◇◇　杵築市じゃ　こげなふうに唄いよったち言う。◇◇

お城のさん　王様蛙が　イッチョゴで　おかごで　イッチョサノサ　さしたかドン　しのぶかドン　ドンドと鳴るのは雷だ　城木屋の　お駒さん　歳三さん　たばこの煙りは　ヒーフーミーヨーイツムーナナヤーココトー。

テマリ唄は　室町時代ん頃かる　子供ん遊びにゃ欠かせんもんじゃつごたるき　唄い継がれたんじゃろう。明治になっちゴムマリが入っちかるわ　外ん遊びにも使われでーち　減ったけんど女ん子にゃ離されん　遊び道具じゃつた。唄の文句も伝わり流れち変わっちくるが　人ん心ん中にゃチョコント　根づいちょるごたる。半纏ひらひらさせちゴムマリつく　思うただけでんエエラシシイこと。又どげな唄でん合わせち　マリツキ出来るき不思議でんある。

ところが同じ肥後領でん野津原まじくると　唄の文句もちっと違ぅちくる。

お城のさん　おん様在所が　一丁ごでお籠で　一丁様どん　さしたかどん　しのぶかどん　どんどとはやるは　泥神さーまか　ここはしのはら　さかいのどん　おんよしいわらの　吉郎さん　駒造さん　とぼけてはやるは　音八さん　白木屋の　お駒さん　さいださん　タバコの煙りで１８歳　酒もってこい　吸い物なんどは　早ぅ持ってこい　ヒー　フー　ミー　ヨー　イツ　ムー　ナナ　ヤー　ココ　トー　トコトン。

※　３つ並べちみると　オシロノサン　イッチョゴ　オカゴデ　サシタカドン　シノブカドン　ドンドト　オコマ　サイダ　タバコノケムリ　なんかが共通しちょる。又どうやら１８歳ん娘ん姿が浮かんじもくる。そりー『お駒　歳三』ん姿がありそうじゃき　そん時代に合わせち　作った唄かん知れん。

玖珠地方や　荻地方ん『テマリ唄』にゃ　手まりぅ大事に包ぅじ渡すち言う　言葉に乗せち毬つきしよったごたるき　海かる離れち山間地帯に行くにつれのーち　物ぅ大事にせにゃなかなか手に入らん　子供ん世界じゃ宝物じゃつたんかん知れん。貰うた子供も『しっかり受け取る』　と言うあたり　物を大事にする気持ちが　遊び道具一つにん　込められちょつたんじゃろう。

オサシと共に一番よきー　使い唄う『テマリ唄』は　こげな歴史を子供がしゃんと　受け継いじ戦後まじ続いてちょつた。素朴じいつでんどこでん何人でん　遊ばるる『テマリ唄』　いつまでん残してーもんじゃが。外んボール遊びに追いまくられそうじゃ。せめて唄だけでん　残しちょきてー……。

町内の山仕事ぃ外かる来た人たちぃよっち　持ちこまれた唄に『しない踊り』がある。故加藤正人さんが県内ん民謡発掘の機会に採譜したもんじ　平成に入っち多ぅ取り上げられた。本唄は奥州あたりん物語じゃ　伝承ん中間じ土地の風土にん馴染み　歌詞も変貌されたごともある。野津原ん場合も入蔵や矢の原なんかに入り　土地ん人たちが大切に保存したごたる。最近になっち土地の風情もこめた　歌詞もついちょるき面白い。

『しない踊り』　　伝承した原形

国は　ごきない　河内の国よ　サノヨイ　サノヨイ
河内国では　のぶよし長者　サノヨー　ヤセ　ヨーヤーセ

すえの　世をとる　春徳丸は　サノヨイ　サノヨイ
年は　十五で　まだまるびたい　サノヨー　ヤセ　ヨーヤーセ

ここに　説き出す　団七の　サノヨイ　サノヨイ
いわく　因縁　口説いて見ましょう　サノヨー　ヤセ　ヨーヤーセ

国は　奥州　仙台の国　サノヨイ　サノヨイ
頃は　カンエイ　十四年にて　サノヨー　ヤセ　ヨーヤーセ

わしが　思いは　宇曾さん　山の　サノヨイ　サノヨイ
外に　木はない　ただ松ばかり　サノヨー　ヤセ　ヨーヤーセ
※　木……気　松……待つの意味

心　せくよりゃ　川せきなされ　サノヨイ　サノヨイ
川にゃ　思いの　恋が《鯉》おる　サノヨー　ヤセ　ヨーヤーセ

採譜した時ん歌詞の一部分じゃが　のちー地元ん歌詞がでけた。

地元に『七瀬馬子唄』…加藤正人作曲…が出来ち　そん中かるしない踊りん歌詞に　使われち小学生ん集団演技に使われた。肥後街道ん旅人ぅ想像するにゃ　様になるごたる。

『しない踊り』　肥後街道馬子唄かる

肥後か　府内か　一の瀬渡りゃ　サノヨイ　サノヨイ
お国　訛が　なつかしい　サノヨー　イヤ　ヨーヤーサ

馬に　揺られち　旅する人にゃ　サノヨイ　サノヨイ
馬子の　ひとふし　心に染みる　サノヨー　イヤ　ヨーヤーサ

肥後の　糸屋の　吉兵衛さんな　サノヨイ　サノヨイ
京の　修行の　今里かえり　サノヨー　イヤ　ヨーヤーサ

秋葉　越ゆりゃ　火伏せん森に　サノヨイ　サノヨイ
フロー　煮えたか　諏訪の灯じゃ　サノヨー　イヤ　ヨーヤーサ

思い　巡らす　十年前ん　サノヨイ　サノヨイ
諏訪ん　街道じ　病に伏しち　サノヨー　イヤ　ヨーヤーサ

通り　合わせた　馬方さんに　サノヨイ　サノヨイ
助け　られてん　一夜ん宿も　サノヨー　イヤ　ヨーヤーサ

忘りゃ　せんけんど　一言礼を　サノヨイ　サノヨイ
捜す　七瀬ん　日も山に入る　サノヨー　イヤ　ヨーヤーサ

二の瀬　三の瀬　無事瀬を渡り　サノヨイ　サノヨイ
めぐす　不動に　笠を脱ぐ　サノヨー　イヤ　ヨーヤーサ

通り　合わせた　可愛い馬子に　サノヨイ　サノヨイ
捜す　馬方　尋ねてみれば　サノヨー　イヤ　ヨーヤーサ

ほうちょぬべぬべ

ホウチョぬべぬべ　今夜の夜食　チリツンテンシャン　アラ
ヨイショ　ヨイショ
早く　ぬばねば　夜があける　ソレエヤ　ソレエヤ　アトヤンソレサ

盆の十六日　おばんかていたら　チリツンテンシャン　アラ
ヨイショ　ヨイショ
なすびきりかけ　フローの煮しめ　ソレエヤ　ソレエヤ　アトヤンソレサ

春田起こしに　一服すれば　チリツンテンシャン　アラ
ヨイショ　ヨイショ
子供が　のしろじ虫をとる　ソレエヤ　ソレエヤ　アトヤンソレサ

諏訪の祭り旗　御輿も着いて　チリツンテンシャン　アラ
ヨイショ　ヨイショ
呼ばずに　来るのが祭り客　ソレエヤ　ソレエヤ　アトヤンソレサ

谷の水あび　柱松あぐりゃ　チリツンテンシャン　アラ
ヨイショ　ヨイショ
村の　踊りは十三夜　ソレエヤ　ソレエヤ　アトヤンソレサ

※　ホゥチョウ…小麦粉を使ぅた麺料理の一種じ　農家じゃ主食の役目も果たしちょつた。夜が明くる…人数が多いき作るに時間がかかる意味。おばんかたん…叔母さんかた。ナスビキリカケ…夏はどこでん出来たもんぬバッカリ食いしよった。のしろじ虫捕り…苗代ん害虫駆除。呼ばずに…たいげー呼ばんに寄っちくるんが祭り客。

踊るうちでは　あん娘が一よ　チリツンテンシャン　アラ
ヨイショ　ヨイショ
あん娘育てた　親みたや　ソレエヤ　ソレエヤ　アトヤン
ソレサ

ア親の意見と　なすびの花は　チリツンテンシャン　アラ
ヨイショ　ヨイショ
千に一つの　あだもない　ソレエヤ　ソレエヤ　アトヤン
ソレサ

あんた百まじ　わしゃ九十九まじ　チリツンテンシャン　アラ
ヨイショ　ヨイショ
共に白髪の　はゆるまじ　ソレエヤ　ソレエヤ　アトヤン
ソレサ

千秋万歳　思うた事叶うた　チリツンテンシャン　アラ
ヨイショ　ヨイショ
末は鶴亀　五葉の松　ソレエヤソレエヤ　アトヤン
ソレサ

※　昭和５２年に民謡の堀おこしじ　野津原町ん収拾じ研究家ん加藤正人さんが　採譜しち編曲したもん。伝承は農村地帯ん老人たちが大事に保存　踊りも伝承しちょつたぬぅ小学生の『集団演技』に　取り入れち発表。福祉大会でん舞台に出えた。伝承していたなぁ明治３０＝４０年代生まれん人どう。独特な口説き唄なんか　惜しまるる故郷の無形文化財でんある。

えーと保存に間におぅちよかったんかん知れん。いつん日か唄うたり踊ったりしちもらいてーち　真剣思いよるんじゃがな。

おもや会の唄　《山中の四季》

尾崎端に春がくりゃ　前塚山には小鳥舞う
大手町では麦を刈る　みんな総出で麦を刈る

観音様に夏がくりゃ　桜並木に蝉がなく
笠が淵ではアブラメや　ドンコ踊って水浴びる

銀杏原に秋がくりゃ　黄金波打つ稲刈りに
今年も豊年満作で　村の鎮守じゃ秋祭り

林光峠に冬がくりゃ　掘割宕につららつき
中園あたりで天保梨　今年も暮れるか亥の子打ち

来た来た来ました今晩は　北は福岡戸畑から
東は和歌山岩出町　みんな揃っておもや会

★　戦前に作詞された唄で　思い出して故郷の情愛が忍ばれる

『いっぺんぐれーきちおくれ』

お役の人も町の衆も　人柄ゆうて水もよし
出来たお米は質がよい　夏は蛍の野津原に
みんないっぺんぐれきちおくれ

広道登れば大名が　お通りなされた石畳
長い行列した所　瞼に浮かぶ供奴
みんないっぺんぐれきちおくれ

大けんこつう言うよじゃが　九州一のものもある
巨大迷路がそれじゃもの　ちょいと仰向きゃ宇曾山
みんないっぺんぐれきちおくれ

どげんもんでんゆう出来る　鯖や鰯は取れんれど
山のもんなら引きゃとらん　生きた山姥いりゃやるで
みんないっぺんぐれきちおくれ

『野津原神社の七五三』

七瀬河原に秋風たちて　葦の枯葉がそよぐ頃
小鳥は集う鎮守の森に　今日はめでたい七五三

古きいわれの野津原神社　由緒あるのが大銀杏
楠の老木お茶屋の門に　お駕籠止めた日の名残り

リボン振り袖錦の草履　金欄帯の晴姿
羽織袴も床しき男の子　無事の御守り受けましょう

神楽殿には命と姫が　笛や太鼓で踊り出る
幼稚園からピアノの音が　神楽ばやしと音頭とる

『見あぐれば』

七瀬川から南の空を　遥か見上ぐりゃ数ある山の
中で目にたつ宇曾本宮　あらほんとだ美しい美しい
　　宇曾と本宮山は高神様の　鎮座まします御座所
　　山に気品があるわいな　あら本当だそう思うそう思う
宇曾のおん岳さんに打掛け着せて　本宮山に狩衣着せて
田吹き山から拝みたい　あら本当だそらよかろそらよかろ

七瀬帰帆　《ななせのきはん》

七瀬川に舟が帰っち来た　どこまじ行っちょつたんか　でん故郷ん景色ぅ人ぅ見りゃ　ほっとするんじゃろう。そげな故郷があるき今日もさかしゅう生きちょらるる。家じ待つな　親　女子供が無事帰ったち喜ぶ。風がつごーゆぅあっち　そりー乗ったき時のめに七瀬川まじ　帰りちーた。

※　ガリュウ岡の八詠かる…七瀬帰帆の一説

ちゅうせきひゃくたん　いまひちたん
なんとすれど　ともにはらんをおこさざる
えんばん　よるにむかって　いずれのところか　かえる
どうじ　ひとえにあう　そうけいかのかん

★　昔しゃ百端じゃつたに　今は七端
どげーしたんな　いっしょに波風ぅ起こさんじるなぁ
竹じ作った帆なんか　あげち　暗ぅなるごたるにー　どきー帰るち言うんかえ
子供なんかは　一緒懸命　蛍ん灯を見るぬ　騒いじょるが

七瀬川に帆かけ舟が帰っちくる　そげな情景を想像すると昔しゃでえぶん水が多ぅじ　舟が入っちきよったごたる。舟平と呼ぶ場所も東が開けた高台。小舟も川端ん入り江んごたる場所。諏訪ん真ん中じ舟が入ったちおかしゅわねえ。洪水もあったじゃろうが　水ぅ利用したイノチキやら　ホカかる物が入る交流もあった。そげな事が土地ん繁栄になり　人が定着もしたき舟ん利用も激しかったんじゃろう。舟が帰ってん知らんふりゅうしち　蛍追うなんか天心爛漫に子供も育つちょつたんじゃろう。親ん気も知らんじ。

『猫おどり』

ニャーオ　ニャーオと縁側で　なにか欲しそうな顔をする
白いタオルを振り回しゃ　とびつき　ひっかき　ぶらさがり
ニャン　ニャン　ニャンと　猫おどり。

ポンと手まりを　投げてみた　黙って睨んで　追いかけて
やっと掴んで　立ち上がり　体がうしろに　そりすぎて
ころり　転んで　宙返り。

『府内藩から肥後領へ』

府内の大分を後にして　国道４４２号線
車は走る山深く　塚野は最後の大分市　次のバス停田吹橋

ひとつ違いで変わるもの　ここは野津原肥後領地
川をのぼれば田吹山　土新しくほり砕き　美術こらして架けた橋

いずこの絵師か知らないが　手すりに描いた錦絵の
長い行列旅道中　参勤交代肥後の武士　中程を行く殿の駕籠

見る人心ときめかし　思いを馳せる３００年
町のシンボル氏神も　小学校もその名残り　お茶屋の跡と書いてある

故郷を材題にした幾つかん唄　歌を聞く時なんとん言えん哀愁も。それだけ故郷が好きじ　好きじたまらんのじゃろぅ。五助さんがん話ん中にゃ　そげん気持ちもゆう解るごたる。

清正公まつりあれこれ

野津原ん中心部じ毎年８月２３日２４日に　ある『清正公まつり』じゃ　野津原神社に合祀されちょる　加藤清正ん年にいっぺんの祭り。２３日がヨド　２４日が祭りん御輿が巡幸する日。こん日は夕飯以外はヨコワンジ　若えしが夜んがヨドシーカタゲまわす。き盆に帰らんじ祭りに帰るしも多い。

加藤清正は慶長６年《１６０２》ここが　肥後領になったはじめん領主じ　豊後ん内　久住　直入　野津原　鶴崎　佐賀関なんかを入れた　５４万石になったが　入っちかるわ早ぅかる宿場町づくりぅしち　領民の幸せぅ願う土地改良　河川整備　治山なんかも計画　それかるは２７０年あまり明治に入るまじ　肥後領ちしち治められた。

加藤清正は天正１６年《１５８９》熊本領主になり　関ヶ原合戦じ功績ぅたてち天草を貰うが　希望しち豊後領ん一部分ぬ貰うたち言う。清正　忠広と二代つじーたが　寛永９年《１６３３》改易されち　細川領になった。じゃき清正が実際に統治したなー約１２年ぐれーじゃつたごたる。

それでん清正ん死後に郷士たちぅ中心に　清正ん慰霊堂を造り奉り　細川領になっちかる清正公堂が建てられた。文政年間に法護寺が創建継承した時に　現在ん清正公堂が建てられ　明治４年野津原神社に分霊勧請じ　夏祭りが『清正公まつり』ち言うごつなった。清正公堂には現在木造仏像が安置されちょる。

野津原神社は郷社じ平野にあった祇園神社　清正公などを明治４年《１８７２》に合祀創建　清正の命日の旧７月２３日　２４日を清正公まつりと呼ぶごつなった。

★　じゃ…です。されちょる…されています。ヨド…宵祭り。
ヨコワンジ…休まないで。若えしが…若い人たちが。
夜んがヨドーシカタゲまわす…夜遅くまで朝方まで担ぎ。
き…ですから。帰らんじ…帰らないで。帰るしも…帰る人も
。ここが…この地域が。はじめてん…はじめての。なんか…
なども。入っちかるわ…入ってからは。なんかも…なども。
それかるは…それからは。まじ…まで。

たてち…たてたので。貰うたち言う…貰ったと言います。
つじーたが…続いたが。じゃき…ですから。ぐれーじゃつた
…ぐらいと思います。それでん…ですけれど　それでも。
郷士たちちぅ…郷士の人たちを中心に。なっちかる…なって
から。ごっなった…よぅになりました。

昔しゃ前日祭　大祭　明祭ん３日じゃつたが　大正になっちかるは２日になり　今は２３日を宵祭　２４日を本祭りにしちょる。が実際にゃ２５日の夜明け前まじん　祭りになっちょる。祭は年行事が取り行いん責任ぬ持ち　そん下に御輿長や幹事がつく。当番区ん区長が最高責任者になる。外ん二区は大山車を引き立てち賑わいを添え　太鼓山は三区がお供をする。交渉委員が各区から出ち事故んねえごつ　目を光らする。神官な馬を利用しち立ち寄りん家じ　祝詞《のりと》をあげち無病息災家内安全の厄よけぅする。こん頃ぁバイクじ回る事も多ゆうなったが。

★　大山車《だし》が参加するなぁ　合祀されちょる祇園神社の祭りの名残りがあるけん。明治３８年の戦勝を記念しち出るごつなったき　当時ん飾り付けは実に豪華じゃつたが　保管や年月ん経過じ傷みも酷ぅなっちしもぅた。戦後にゃ骨組みにちっとぅん飾りと造花じ　３４年に復活４３年に中止になった。

祭りにまつわる影の姿

野津原神社ん門な江戸期ん参勤交代の　お陣屋の裏門ぬ神社創建の時ぃ移した。ケヤキ造りん門じゃき４００年じこーたったに　今も風格ぅ留めちょる。

清正公まつりは豊後ん大けな祭りん内　浜ん市　賀来ん市　清正公市ち言われよった。参拝客も多いいき賑わいじ　名物ちされちょつた。郡役所に届けを出しち総代連名じ　『迷惑はかけない』　旨の添え書きをつけち出す。そんかわりにゃ当日は『お使い』が来ち　祭りの見物なんかを確認する。ご神納も下付しちもらうし宮総代が　迎え送りもしたち言う。

御輿ぅ担いだ若いしが走り出すと止まらんじ　木の上ん三差路まじ行く。心得たもんじチャント場所ぅ造り　迎えた時代もあった。一里ん道程考えちみりゃまあ　祭りにあやかりて一気持ちがゆう解る。暗黙ん了解じゃつたんじゃろうが　区域内ん境に張られたしめ縄は　一年いっぺんの若いしのヒョウカンも　清正公はきつと許した事じゃろう。ひょいとすりゃ喜んじょつたかん知れん。

囃子踊りは長洲あたりん子供芸人ぬ呼うじ　大山車ん舞台じ踊り芝居もしよった。『チンコ芝居』ち言う人気芝居じ　場所が変わるたんびに囃すのは地元ん子供。芝居役者は受元が賄いつきじ雇い世話役は芝居の世話かる子供囃子ん世話と　そりゃもう大事じゃつた。子供囃子も夜が更くる眠りこけち　親も大事舞台の合間は抱え下ろしち汗を拭くやらシラシンケンじゃつた。けんどなかなか出られん事じ名誉でんあったごたる。戦後は小学校２年と中学１年生があたるき　ちょうど挟ん子は出られんままじゃつた。『花の御礼』車舞台じ披露するのん子供ん名前が　親ん人気も代弁しちょつたごたる。弓張り提灯ぬ持っち歩く役員ん姿は　なんとん言えん粋な姿じ男冥利な祭りでんあった。

★　門な…門は。門ぬ…門を。じこーたった…あまり過ぎた。
お陣屋…参勤交代時代の宿泊所《野津原の殿様宿》
大けな…大きい。祭りん…祭りの。言われよった…言われていた。されちょつた…していた。ご神納…神様祭りご祝儀。止まらんじ…止まらなくて。もんじチャント…もので整然と。みりゃまあ…みれば無理もない。じゃつたんじゃろう…そんな事であったのだろう。ヒョカント…急にかねてのように。ひょいとすりゃ…本当のところは。じょつたかんしれん…そんなふうに思う。あたりん…地方の。たんび…たびに。そりゃもう…それはそれは。眠りこけち…眠りかぶって。シラシンケン…本当に真剣に。けんど…けれど。ごたる…ようです。ままじゃつた…ままになってしまう。

加藤清正は武にも秀でておったが　情けにん厚うじ領民の幸せぅ常に念頭においちょつたき　統治わずか２５年あまり《清正は１２年あまり》じゃに　３００年過ぎた今でん人柄ぉ忍ばせちょる。外ん資料によりゃ　治水　干拓　城つくりでん　自分かる視察調査した上じさまざまな活用も考え合わせたらしい。水を引くにしてん農業と飲料に使えんかとか　あばれ川を押さえるにゃ降る雨を上手に裁けんかとか。家臣の個性を尊重　領民の溶けこむ工夫やら努力もしたち言う。

野津原ん清正公祭りは旧７月２３日２４日じゃつたが　昭和３５年かる８月２３日２４日に　変更になつた。そりゃ年によつちゃ９月に入る事があるき　お供ん子供が困る事やら寒くなる季節ん事もあったき。熊本ん清正公廟は７月２８日がまつり。鶴崎ん法心寺ん祭りは７月２３日ちなつちょる。

野津原法護寺ん灯す万灯は　参勤交代時代の迎え送り火の名残りじゃが　素朴な中に風情が醸しださるる。

★　情けにん…情けにも。おいちゃつたき…おいていたから。
じゃに…なのに。忍ばせちょる…かくしている。引くにしてん…引く場合も。裁けんかとか…上手に取り扱う。
したち言う…実行した。じゃつたが…であったが。年によっちゃ…年によっては。あるき…あるから。万灯…カンテラ灯のことで　夏祭りの法護寺石垣にゃ　宵まつりから祭典当日まで　夜には万灯がともさるる。かってはタイマツの時代もあったが　現在では毎年カンテラ灯。参勤交代時代に殿様の宿泊した際に　迎え火　送り火として灯された名残り。

最近になっちかるは　祭典の幹線道路どこにん紅白に染められた　提灯が道ん両側に灯されち　夏ん夜に幻想的な風情を醸し出しちょる。商工会が寄贈した紙ん祭り色紙ん時代かる　近代化した祭典にゃ時代ん移り変わりも反映されち　祭りん歴史や清正公の人柄も知るのん少のぅなっちょる。一頃祭りぅ日曜日にしたらどげーな　ち話もあったごたるが　やっぱ昔かるん伝統を守るんがいいんじゃろぅ　決まった日にされちょる。

野津原にゃ肥後ん人情も底流にゃあっち　子守歌なんかん詩にも取り入れられちょる。伝承された言葉づかいや訛　アクセントにん共通ん面がある。又参勤交代じ大阪やら京文化も入り　清正の生地じゃつた尾張地方ん『ケンチン汁』ぁ　今も伝わっち後ん細川時代ん若狭地方より　根強いごたる。参勤交代は制度上は問題もあったが　文化ん交流やら交通道ん整備なんかじゃ　大けな役割も果たしちくれたごたる。

★　ケンチン…中国の精進料理じこん地方じゃ今でん愛用しよる。

御輿が暑さじたまらんごつなっち《正確にゃ担ぐしが暑いき》川に入る。淵にはまっち御輿まじ沈めち　戯れちょるもんじゃき幹事はヘッケムケ思うが　そげんこたー一考に構わん。しこたま遊うだ挙句にえーと上がる気になったごたる。立ち寄る家が多いき急くぬ堪えち　『ゆうやったのー神様喜びよるど』ち　上手んかおー言うち迎ゆる。

橋ん下どま潜るときにゃ橋ん上は通行止め　すぐ潜っちしまやーいいが　又へもどった。慌てち通行止め……それでん祭りにゃ若い者ぃ花を持たせち　黙っち協力もしちくれた。ほかん地区んしにゃ御輿にゃ手もふれさせんき　羨ましがられたものじゃつた。が人手が少なぅなっちかるわ　区内んしも入り親戚も黙認するごつ。

★　たまらんごつ…辛抱できなくなり。はまっち…はいって。
もんじゃき…ものですから。ヘッケムッケ…気をもみ心配する。そげんこたー…そんなことは。しこたま…気のすむまで。ゆうやった…よくやりました。喜びよるど…喜んでいる。
上手んかおー…うまいぐあいにほめて。下どま…下を。
へもどった…元の場所に帰った。それでん…それでも。
ほかん…よその　別の。ふれさせんき…ふれさせないから。
羨ましがられ…御輿を担ぐ機会のない人たちには　羨ましい事。なっちかるわ…なってからは。ごつ…ように。

祭りが盆過ぎんために盆に帰らんじ　祭りに帰るしが多い。周りん地区まじそげな風習があっち　それだけ魅力もあったんじゃろう。祭りに休むき盆かるは仕事も手につかん。草きりに行きゃおおごつ切っち積み上げち　よこぅてんしょわーねーごつ。それでん若いしは夜は寝らんでん　朝草切りにつれのーち行くのん楽しいごたる。

盆が１３＝１６日と続き１７日お観音様　１９日お施我鬼　２１日お接待そしち２３日かる祭りと　もう胸が高鳴るのん無理ゃねえ。

★　らんじ…らなくて。帰るし…帰る人が。そげな…そのような。あっち…あって。あったんじゃろう…あったのでしょう。盆かる…盆からは。つかん…おもい道理にならぬ。おおごつ…たくさん。よこぅてんしょわーねー…休んでも大丈夫。でん…なくても。つれのーち…つれだって。そしち…それから。

大山車ん引き立ては明治ん日露戦争記念かる　引き立てられたが昭和１１年に　戦時下自粛ち言うこちーなっち中止。昭和３４年かる復活したけんど　こんだ交通事情が悪ぅなっち４３年じ中止に。そんあと何回か引き立てん話やら　地区ん中央に据えち舞台劇なんかもしたが　大山車自体も傷みがあっち　３０年あまり当時ん絢爛豪華ん祇園大山車も　姿を消しちしもぅた。戦前４０年戦後１０年ばかりん　清正公大山車も５０年あまりじ　夢が消えてしもぅた。

★　かる…から。こちーなっち…事になったので。やら…など。舞台劇…舞台の上を利用して踊りや歌や劇などを披露する。しもぅた…しまった。

祭りにゃ恵まれん人たちが　門にたっち物乞いをすると　てえげえんしが餅　米　麦なんかをあぐる。お宮やらお寺やらじ夜をあかしち　過ごすしもあった。祭りんごっそち言ゃ米ん飯　魚　うどん酒焼酎じゃつたが　何ちゅうてん餅たきがおおごつ。カンカラん葉やらトーキビん葉を使う酒餅　タンサン餅。こげな葉は殺菌力があつたごたるき　言やー生活ん知恵じゃつたんじゃろう。祭り客にゃ帰りに餅ぅみやげに持たせた。露店も並びガス灯が揺れち浴衣姿ん若えしが　あんげこんげ動くと御輿掛きがそりゅー追う。大山車ん二つが出会うと中に御輿を挟みくうじ　そきー太鼓山車も脇かる入るもんじゃき　御輿が封じこめらるる。御輿が走ると若え娘がキャアキャア声が　祭り気分ぬ盛り上ぐる。賑やけぇんが真剣面白ぅなっちくるもんじゃき　人がまた集まっち来る。

★　恵まれん…恵まれない境遇の。門に立つち…玄関に尋ね。物乞い…物をいただく。てえげんしが…たいがいの人が。あぐる…差し上げる。やらじ…などで。ごっそち言ゃ…ご馳走と言えば。何ちゅうてん…何と言っても。おおごつ…大変。こげな…このような。ごたるき…ようですから。じゃつたんじゃろぅ…であったのでしょう。ガス灯…ガス《カーバイト》を燃料の明かり。あんげこんげ…あっちにこちらに動く。御輿掛…御輿を担ぐ人たちの係の呼び名。挟みくうじ…挟みこんで出られないようにする。賑やけぇんが…賑やかなのが。くるもんじゃき…くるものだから。

昔は御輿の立ち寄りん家じゃ座敷に　筵ぅ敷いち着くこちーなる。それも川かる上がったばっかりん事もあったが。川に夜おすぅなっちつかりなかなか上らんき　幹事も頭悩ましたけんど一年一回ん祭りじゃもんじゃき　若いしに花も持たせた。大山車んコネ棒なんか時にゃ喧嘩ん道具にも　血を流すことも珍しゅうはなかった。

娯楽ん少なかった農村じゃ御輿ん出る祭りゃ　最高ん賑やかな祭りでんあった。時代が変わり祭りんスタイルもちっとんずつ変化したが　清正公に対する考えはなんか人一倍強ぅなったごたる。それだけ領民に好かれたんが　野津原魂みたいな素質になっち　受け継がれたんじゃろう。誰言うでんねーのにいつんなかめーか。

★　こちーなる…事になつている。おすぅなっち…おそくなって。もんじゃき…ものですから。コネ棒…車をこねて左右に動かす力棒。御輿ん出る…御輿が主役の祭り…町内でも少ない。ちっとんずつ…少しずつ。なんか…なでか。野津原魂…いい意味の郷土愛の気持ち。継がれたんじゃろう…継がれたと思います。言うでんねー言うのでもないけれど。いつんなかめーか…いつの間にやらごく自然に。……五助さんの話にゃ何か引きこまれちしまうような……

心に残る

ふるさと方言

ランプん下じん針仕事

薄暗ぇランプん灯でんヒーロがつうじくる。『もう寝らんか』寝返りぅうった時にまぁ起けちょるんぬ見ち　婿じょうが声ぅかけた。『もうすぐ済むき』　若え婿じょうは待っちょるんじゃろう。それでんコイサ繕うちょかんと明日は　又綻ぶかん知れんち思うと『嫁ごが来たにあん格好』ち笑わるる。

今まじ親に甘えち何もあんまりせんじゃつたき　そんツケが回っち来たんかん知れん。じゃが優しい婿じょうが気くばりしちくれち『三つ日もおらんじ帰るわい』　近所んしの口悪がもう一月過げた。親からも『帰っち来たりすりゃーめんどしい』　ち言われた言葉は『いつでん辛抱出来にゃ帰れ』の　暗示じゃつたのか。

百姓は泥だらけん仕事じねんじゅ貧乏。美しい着物ぅ着ち他所行きんしのシコが羨ましい。じゃき働いちノソウヤち言うた婿じょうにも　惚れち夫婦にもなった。人間は見かけだけじゃねえ心が美しかりゃ　どんくれー幸せかち自分に言い聞かする。ユラユラち灯が揺るると眠気も押し寄せた。

えーと済んだふせもんぬ片ずくると肩をちょいと叩く。若ぇたーいえ凝ったごたるがこれも嫁ん務め。婿じょうん横にずりくーだらノキ抱きついち来た。やっぱ待っちょつたんじゃろう　無理もねえこと肌が燃えちほてっちょる。女ごん性ん悦びも信じらるるなら燃えて見たいから。

★　でん…でも。ヒーローがつうじ…蛾が飛んで。寝らんか…寝なさい。起きちょるんぬ…起きているのを。ちょかんと…しないと。せんじゃつた…しなかった。おらんじ…いなくて。めんどしい…恥ずかしい。シコ…格好。ノソゥヤ…好調に。どんくれぇ…とれくらい。ふせもん…修理物。ずりくーだ…入った。ノキ…急に。

ナバ山の心癒さるる一時

『もうでーぶん取ったごたるな』『ユーロが痛えけんどハカドルきあとちっとになつた』　無理た解っちょるが遅らする訳にゃいかん取り入れ。去年な少なかったき今年しゃなんとか　年寄れしにも着物ん一枚も。同じもんのじょうじゃオドロクセーち　嫌わるる。カラクジイここん分な片ずくかんしれん。

腰ぅのしたらいつも来る鳥が側まじ来た　顔ぅおぼえたんか憎めん素振りしち束ん間ん心が和む。アジロジイ姿ぁ目を楽しませちもくれち。『元気に頑張りよるなあ』　そげな相手ぅするごたるにイテツクバツチしもうた。えんやらえーと張りこむが雨でん降りゃいいち　そげな欲も得もねえこつーも考ゆる。

『ちょいと一服するか』『……』　そりゅう待っちょつたごつそきー座りくうだ。だった体かる抜けち行くような夢が　空中に飛び散っちしまいそうな。『ほら蜜柑ぬやるど』『えー……』　躊躇すんぬ笑うち『元気が出るど』　見た香りん瞬間に生気が甦るような。人間の体の不思議な仕組みに嬉しさも覚ゆる。

酸味が強いけんど好きな物は体調まじ好転さする。ナバ山ん片隅じ心が和めば仕事もはかどる。トッパイん白和えでんこさえち酒ん肴にしゅうか。夫婦のいたわりが家庭の絆も強め　仕事んやりくりが銭儲けにも結びつく。さいでんの鳥がさえずるなぁそげな光景を悦びよるんか。元気が出たごたるナバ山ん夕暮れ。

★　ユーロ…足の下半分の裏側。オドロクセ…匂い。カラクジィ…立派。アジロジイ…立派。イテツクバル…返事に困る。そりゅ…それを。そきー座りくうだ…そこに座りこんだ。だった…疲れた。やるど…あげます。トッパイ…トーフ。こさえち…こしらえて。さいぜん…さっき。

子供ん使い

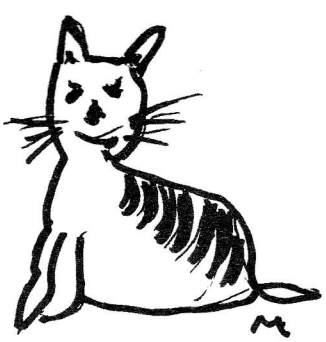
『本ぬ買いに行っちこにゃ日が暮るるど』『わかっちょる』　親に言われち忘れちょつたぬ思いでーた。一人じゃヨダキーき誰かトギぅ捕まえち行こう。『やんな暇か』『何かようか』『本買いに行かんか』　よだきそうに返事が返っち来た。『どおくんな本な買うたど』　それでん何とかいらぶけーち行くこちーなった。

オトシかる好きなヒョンヒョングリぅさい出すと　黒い顔に白い歯が光った。こんげん仲良しじゃきドークル事も　スラゴツもするがズツネーとも言わん。こん前ジリビヤキがあったき食わんかち言うたらけっくしゃ喜ぅじ。そりー比ぶりゃ俺んほうが言うこつー聞かんごたる。

『重いき包むか』『そげーしちくんな』　本屋んおばさんが包んだぬーかるうと　てくてく坂道ぅ歩いた。友達んやたーいいもんじ遠いに加勢しちくれたが　自分な言われたらすぐ返事ぅしたじゃろうか。自分勝手は許されん世間に子供ながらも　悪かったち反省しち薄くらぅなった家に帰りちーた。

★　やんな…お前は。よだきそう…大義そうな。いらぶかす…ごまかす。オトシ…ポケット。こんげん…とても。ドークル…ふざける。スラゴツ…本気でない。ズツネー…気持ち悪い。ジリビヤキ…粉を使って焼いた食べ物。かるう…背負う。そげー…そんなに。やたー…やつわ。じゃろぅか…でしょうか。トギ…友達。けっくしゃ…結構。

◇　本買いにテクテク歩く坂道には友情と日ごろからの　信頼や親しみがないと咄嗟の間には合わない。喧嘩したり仲直りしたりの子供の世界は　微笑ましいもの。



『情けは人の為ならず』

『ノキー来ち悪いけんどどげーな』『すまんなえ腰ぅタゴケーチどげんこげんならんじ』　前だれん下かる菓子ん包みぅサイデータ。『テボンジコラエナー』『オオキニすまんなえ』『山ぇ仕事ち行こぅち思うたらシヤ思いでーち』『もうしまうな』『あとちっとになったんで　干しよつたところフスボラケーチ』

親子んごつ懇意にするしが腰ぅタゴケーチ　上がり口腰かけち話すうちでーぶん顔色がいいき　安心した。世話になるに悪い時こす助け合うんが　人間の世の中ちゅうもん。仕事たちっとぐれー遅れてん人ん情けにゃかえられん。頭ぅ手櫛じなぜながら嬉し涙がこぼるるごたる。

もう３０年にもなっちえーと家族が子供が　周りにおるき寂しい苦労もねーけんど　来た頃にゃそげな思いが毎日じゃつた。じゃき隣に嫁に来た頃にゃまるじ母親んごつ　ゆうしちくれたこんし。心ん中じゃいつも手を合わせよった。ほかん加勢は出来んでんせめて悪い時ぐれーは支えになっちゃげてー。

★　ノキー…急に。どげーな…どうですか。タゴカス…痛めて。前だれ…まえかけ。サイデータ…さい出した。テボンジコラエナー…手のままでご免。シヤ…思わず。フスボラケーチ…煙りにいぶして。でーぶん…だいぶ。時こす…時こそ。ちょっとぐれー…少しぐらい。手櫛…手で頭をなでる。なっちえーと…なってやっと。そげな…そんな。ごつ…ように。ほかん…よその。なっちゃげてー…なってあげたい。じゃき…ですから。ゆうしち…よくして。こんし…この人。よった…していた。ぐれー…くらいは。

『二人の夢』

月明かりん橋ん側せせらぎん音ぅ聞いち　草原ぇシャガミクーダら誰が捨てたんか空き缶ぬシャイだ。サイデーた手をしっかり握ると　何んじシビータンかミミドバレしちょる。『どげーしたんな』『サジインジャニ』　どうやら木の枝じシビカレタラシイ。ドンナコツーち思うたが　顔見合わせち笑うと白い歯がクッキリ。

『ズーシンなしがショノンジ』『又何かセガワレタんじゃろう』『センムキかち』『そげんこつーえ　こんだ言うちゃんなーサレガイガアルデち』　甘えてーよーな気持ちぅ言葉に変えち言うと横目じ　そっと見た。まんだらでんねーような表情じ　嬉しそうな弾む態度が解る。

『ゾーサネエ今年も夏になっちしもうたな』『元気はいいんな』女性に言われると男は弱ぇき　優しい気持ちにしゃんと抱きしめたら　母性本能が伝わるごたる姿体かる　男ん幸せが湧いち出るごたる。『しょわーねーき貴女こす病気しなんなえ』　二人ん気持ちゃ心はもう固ぇ絆じ結ばれちょるんじゃろう。月を雲が隠した気のきかせように　二人はしっかりと愛撫しながら……。

★　シャガミ…座り込む。しや…つい。サイデータ…さい出した。しびいた…急劇に叩く。ミミドバレ…細い腫れあと。ドゲー…どうです。サジイ…早い。どんなこつー…うっかりして。ズーシン…無精者。ショノンジ…嫉妬。セガワレタ…いたずら態度。センムキ…しないまま。そげんこつー…そんな事を。サレガイ…してもらう幸せ。ゾーサネェ…簡単で。

若い二人ん楽しいアイビキ《デート》も　こげな《こんな》格好が夢もあっち　よかったんかん知れん。やんがち《やがて》二人は結ばれて。

『やんこす　うまいで』

『だったきちょいとよこおーや』『つっかきー言うもんじゃきのやシャントシヨヤ』『しょわーねーがツクナランゴツセント』『てえげーにゃさかしいき』　昔かるんトギ　チュウラケーテン　だまくらけーてん怒りもせんし喧嘩にもならん。頭がいいほうは知恵ぅ回し　一方は動くことじうまく行くんじゃろぅ。

『ちっとよこやー元気が出るきドチャミチャ　急くこたーねーき後ぁドーサネーワイ』　割木をどうでん早ぅほしいち言うき　担げ出すに手間がいを頼んだら　自分かたん仕事ぅほたっち加勢に来ちくれた。トギちゃいいもんじゃ。目鼻もちーたき残りん分な一人でんいいが　それじゃ折角ん加勢にスマンき。

『えーと済んだのースマンじゃつたのや』『へよ　酒手が高えどマドエヤ』『タエネーコツー言うな』　二人は大声じ笑ろぅた。心の絆がありゃ困った時すぐ飛んじ来ちくるる。

薪もん取りん時じゃつた。こざくるんが上手いもんじゃき　仕上りが美しい。帰り道若い娘たちとすれ違うたら『こりゃ誰の　ありゃあんしのち』　すぐ解っちしまう。それでん苦にも気にもせんかる　いつまでん友情が続いち行く。『あいつにゃ叶わんきのや』皆が認めちょるけんど　そりゅうは自慢にゃせん。

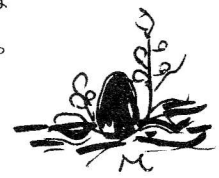
『たえねーき遊びきたど』　提灯ぬトビーチ裏木戸から入っち来ると　遠慮もねー上がっち座る。『つないで誘ゃよかったに』　好きな娘がおるぬぅ知っちょるがわざとカマかけた。『晩に呼びでーたりすりゃ怒らるるきの』　優しい心くばりん言葉に心じ頷き気持ちゅう　大事にせにゃちおもぅた。待っちょるかん知れんが夜の外出は　立場を考えちゃらにゃ。義姉さんな気を利かせちくるるが。それにゃ甘えられん好きじゃき尚更。

『来ちょつたんな　今日はノキ言うちスマンじゃつたな』『いんげなこと　こいつん顔見たかった時じゃつたき』『ひじばち合うちだったじゃろう…テザラじ悪いが』　母親がお茶とぼたもちぅ皿に出した。『りゃーおばんがん　ぼたもち久しぶりじゃのう』『がいと食べなー帰りオカチャンに持って帰っち』

甘いものが好きを知っちょるきバタバタ炊いたんか　指ん間かるたれ落てそうな餡が母親ん愛情表現。昼ん仕事んだったこつーも忘るるごつ　話も弾んじ秋ん祭りに飛躍した。『狂言ぬするち言いよったがどげーなったんか』『するらしいど　団長が近ごろフレぅ回すち言いよった』『又やるんかのー』『そりゃそーじゃがお前出番な　決まっちょるごたるど』『何や　』『どうでん人気者んじゃき夜が明けんごたるど』『時にゃ交替してーのや』

『やんなうまいきのや』『へよお前ん方が上手じゃねーか』　二人ん話はいつまでも賑やかに　障子に影ぅ写しち。

★　だったき…疲れたから。よこおーや…休憩しょう。つっかき…急に。のや…でしょう。しゃんと…しっかりと。しょわーねえ…大丈夫。つくなる…うずくまる。てーげー…たいがい。とぎ…友達。ちゅうら…浮き浮きそわそわ。だまくら…嘘言う。ちっと…少し。どちゃみち…どっちにしても。どーさねえ…わけはない。ほったらけーち…構わない。酒手…小遣い。まどえ…払いなさい。こざくる…小枝を落とす。あんしの…あの人の。たえねー…手持ち無沙汰。かま…ナド。つないで…ついで。のき…急に。ひじばち…ひどいめ。だった…疲れた。ぼたもち…もち米入りのおはぎ。おかちゃん…母親。ばたばた…急いで。夜が明けん…幕が開かない。やんな…お前は。やんこす…お前こそ　君こそなくてはならない適役名演技役者。◇　戦後の一頃にゃ青年団の素人演芸が流行　結構受けちょつた。



『回っち帰った情け』

二週間に一回んお医者に薬貰いに行く日。『今日はおんのーモチ米ぅちっと持っち行くき　盆だんこにでんしなぁ』『おおきにいつもすまんなぁ待っちょるき』　手足が痛むごたるきカイトわ持てんに。そぅしゃ番ぬ取っちょいちゃろう。病院は早いち思うたら声し解ったんかカーテンが開いた。顔馴染みたぁうれしい。

顔なじみん看護婦さんじゃつた。『早いこと番取りな』『こん前なぁ出えたんな』『まぁじゃろうな楽しみにしちょるけんど』『待つのん楽しみじゃろうがえ』　バスが来るまじち思うたら近所んしが　乗せちきちくれたごたる。『待つちょつたら早ぅ乗んなーちわざわざ送っちくれたに』　日ごろゆうしちょきゃこす。

米ぅ作れんごつなったけんど　今までんごつ皆かる貰うき有難ぇ事で。ち話す顔ん皺がちった増えたけんど　皆に施した事が今になっち花ぉ咲かせよる。こん前も若い頃に世話になったち　入院したぬ聞いち見舞いに来ちくれた。昔ん世話になったこつー知らんふりゅうすりゃ　出来んこたーねえに。

そりー祭りがあるき迎えに行くき汽車じ来るごとち　連絡があったもんじゃき知りべんしと出かけた。駅に迎えに来てくれち抱き合ぅち　涙が流れ感激しちしもぅた。世話をしちょつた頃にゃ旅行にも何べんか　そげな思いでがあるもんじゃき　いつも頭かる離れん恩返しがしてーち　手を取り合ぅた。

当たり前ん事が儲けと計算するしが多い世の中。しゃが誠心誠意の世話と付き合いはいつか　回り回っち自分にへもどっちくる。心が優しぅし正しけりゃいつかきっと　良い事んある世の中しゃち改めち思うた。情けは人ん為しゃねー自分の宝を育てた証でんある。

ある日若ぇ夫婦が訪ねち来た。両親が仕事ん事じ案内しちもらい満足ん行く　売上げがあったけんど間ものぅ病気になっち　お礼に来んままになっちょつたち　親から聞いち申しわけねーち挨拶する。もう遥か昔んこつー忘れちょつたが　『そぅ言ゃ思いでーたがえーそれじサカシュウナッタんな』『それが動けんもんじゃき』『気の毒な　たしか同じ年じゃつた』

たっしゃじこすよけれ『あげー元気ゆう商売しよったにな』『元気はいいんじゃが　くれぐれもよろしぅち』　そりゅう聞くと元気がなんか湧いちくるごたる。儲けでん　いい家に住んでん　銭があってん病気すりゃ何にもならんき。今の自分がんいのちきが出来る幸せ人生そりゅう思ゃ　皆に世話しちあげちよかったち。

★　おんのう…いますか。取っちょいちゃろう…取ってあげよう。思うたら…思うていたら。待つのん…待つのも。ゆうしちょきゃこす…よくしておけばこそ。ごつなったき…ようになったので。すりゃー…すれば。ねえ…ない。知りべ…親しくする人　家。そげな…そんな。するしか…するより。じゃが…ですが　でも。へもどる…もとの場所に帰る。じゃねー…ではない。なっちょつたち…なっていたので。さかしゅう…元気に。あげー…あんなに。ごたる…ようです。自分がんいのちき…自分の生活。そりゅう…それを。しちあげち…してあげて。

やんがち《やがて》９０になるちゅうこの人　明るく知的な才能も豊富じゃき皆に重宝がらるる《便利に大事に》。人ん為になる事ぁ回り回っち自分がん為にもなっちょる。そげな《そんな》事ぅ考ゆると　知恵も世話も惜しがらんしするんが　いいんじゃあるめーか。人間の一生たぁほんの短けぇもん。惜しまれち行く人間なやっぱいいち思うが。

『じゃき好きで』

『お前かたんなちった色気ぢーたかや』『えーとぱーっとちーたごたるわい』　毎年ん事じゃが成長が苦になる。年中一緒に暮らすき目に見えちゃ解らんけんど　ちっとんずつ色気が出たのん嬉しいもんじゃ。そりー他所んしかる負けめーち思うち　気になるごたる事ぅ言わるりゃ尚更嬉しい。

膨らみがちったー感じらるるき　でーぶんな太っちょるんじゃろう。じーと触っち指先じモモグルとなんとん言えん感触。赤ぅなっち恥ずかしがるような色になりゃ　もうしょわーねえ。モモグッチちっと柔らしゅうなったら　吸いちいち口に入るると今までん温もりが　口いっぱいに広がる。

いっとき口ん中を舌先じ転がす　恥ずかしそぅに何か耳元じ言いよるごたる。『そげーひどーせんじ優しぅして』　ち言うんか　それとん　『もつちっと激しぅモモグッテ』　ち言よるんか　自分も真剣じゃき聞き取れんような　そげん事ぅ思うと赤い肌と舌先がねじくりおぅち巻きついちょるごたる。

『やんな何しょるんか』『や　色気づいたき今指先じモモグッチ見たんじゃが　もう一人前じしょわーねーごたる』『肌色がいいごたるのー指先じあたるんな　どげーか悪うねーか』『いいど　どんこんねーいいわい』　若ぇきとてん感触もいいんじゃろぅ。ふっくら膨らむ格好も上出来んごたる。

『ちったー早えんじゃねーか　キズモンになっち他所に出されんごつなるど』『しょわーねーわな　けっくしゃ柔肌じふっくら膨ろぅじょるわな』『でーぶん見る目もこえたごたるのー』『そりゃ若えきたいしたもんしゃろうがえ』『のぼせよるとろくな事ぁねーと』　やっぱ皆嬉しいこたる。

『指先じ真剣モモグツタラちっと軟ぅなったき　こんだ穴ん所ぃ手をあてち撫でちみりゃ　どこが穴ん真ん中かゆう解るはずじゃ。『穴に手を入るるんか』『そぅじゃねえー穴をほぐ所ぅせんぎするんじゃ』『モモグッタだけじゃ悪いんか』『そうとん　そんままじゃ種が出らんじゃろうが』

指先じモモグッタ赤い皮かる実が離れち　中じ動きまわっちょるんが伝わる。一番いい所ぃこんめー穴をあけち中かる　種ぅちっとんずつもみでーた。気長ぇ仕事じゃがここが一番難しい　腕ん見せ所かんしれん。『よーい半分出たど』『やんな早えのーせくなや』『せくと破るると何にもならんきの』

『えーと出ちしもぅたど』『それじいいんじゃ　ゆう洗うち口じ吹いち見よ』　ほぉづき風船が出来あがっち　荷がおれたごたる。子供ん遊び道具でん上品なもん　娘ん子はいつもオトシに入れちょるき　姿まじ上品に見えたもんじゃ。若いしが真剣に作ったなー誰にやるんか　そりゃー聞かんが花じゃろう。

★　かたんなちったー…家のは少しは。ちーたか…ついたか。えーと…やっと。めーち思うち…負けまいと思い。ごたる…ようです。でーえぶん…だいぶ。モモグル…モム。なりゃ…なれば。しょわーねー…世話はない。そげーひどう…そんなに手あらく。ねじくりおうち…まつわりついて。やんな…お前は。しょるんか…しているのか。あたるんな…あたるのですか。どんこんねー…とてもなによりも。キズモン…汚れ物。けっくしゃ…わりと　結構。膨ろうじょるわな…膨らんでいます。こえたごたる…目利きになったよう。のぼせ…夢中に。ろくな…つまらぬものに。こんだ…今度は。ほぐ所ぅせんぎ…穴をあける所を捜す。こんめー…小さい。ちっとんずつ…少しずつ。せくなや…急がなくても。

民話・伝承語り

『旗たて場』

村ん辻ん高台に秋になると旗ぉたつる。賀来ん善神の様ん祭りにあやかる旗じ　豊作に感謝する願いもこめられちょる。青年が毎年軒んはなになおしちょる幟竿ぅ　担ぎあげち台ん石に縛りつくる。旗んチに金ん輪をつけち竿ん先にゃ杉ん葉を。１１日間立てたままじゃき雨やら風やらに濡れち吹かれち　それも役目じゃろう。

『明日旗立ちゅうじゅうや』『いいど　やんな忙しゅうねえーか他んやつどももよかろうじゃねーか』　みんな気持ちが通じあうき相談なすぐ出来る。立つる事も楽しい行事じゃが　あとん楽しみもあるんが若いもんにゃたまらんのじゃろう。『天気はしょわねーかのー』『降ってん雨じゃろう』『そりゃまぁそうじゃが』

草切りかる帰ると麦飯ぅごそごそかっくうじ　幟竿ぅ吊り下げた家に集まった。通り門がある長屋ん横に一年振りに卸さるる幟竿。ほこりぅうっぷろうち　『頭かる先に行かにゃ坂じなんかけられんど』『俺が先い行くわい』　毎年ん事じゃき慣れたもん　そきー娘どもも加勢に出ちきた。

無事ぃ立て終わると旗ぉ上ぐる。金ん輪が風にカラカラ音ぅ立てち鳴るんが　田舎ん風物詩かん知れん。『お前どうも寄れや』　年上が加勢しにきた娘たちにん声ぅかくる。気配りが里ん皆を和まする　『いってんいいんな』『いいとんお前どうが来にゃ俺ゃ帰るきの』『うっとぅ行く』『うっとうも行くで』

★　はなになおしちょる…端にしまってある。チ…旗の端に金の輪を通す場所。しゅうか…しよぅか。やんな…お前は。じゃねーか…ではないか。ごそごそかっくうじ…急いで食べて。うっぷろうち…急いで払い落として。なんかけられん…添いかける。鳴る…木と金の接触する音。どうも…たちも。いいとん…いいから。
うっとう…私も。

百姓ん朝ん日課は草きりかる始まる。前ん晩どげー遅ぅまじ遊ぅじょつてん　早起きゃキラットしち若者にゃ楽しい時代でんある。てーげー集まる所も自然と決まっちょる。旗立て場に集まる若えしはいつも　５人か６人が申し併せたごつ出ちくる。『やんな目が赤えど』『眠てぇごたるのぅ』　お互いに気づかいあう。

『今日も暑かろうごたるなー』『無理ぅしなんな』『わかっちょるけんど』『やっぱ義姉さんに気を使うんじゃろう』『ゆうしちくるるき』　近ごろアンヤンが嫁ご貰ぅたもんじゃき　言う事も遠慮しちみたりもする。じゃき朝昔かるん若者同志が集まるな　楽しい一時でんある。愚痴も嬉しい事もさらけ出せるる。

『ゆうべも遅ぅなったじゃろ　そしたら裏口ぅ開けちくれちょつたんで』『ふんとえ気が利くなー』『トッタンに見らるると怒るきおじいやな』『そりゃむげねーきじゃ事』　どうやら仲良しじゃろうごたる。他しが気を利かせち先サッササッサち急ぐぬ　いいこちい二人ん話しゃ濃いもんになっちょる。

『お前どう西ん方に行けや』　年上が気を利かせた作戦のごたる草きり場。話てーこつー話させる格好ん場所じゃき　そりー何かしてん絶対に他ん者な行かんき　しょわねーど…口笛吹いたナアそん合図。心にきー取扱いじゃき皆が信頼もしながら　助けおーち行く故郷ん温かさ。

★　どげー…どんな。じょつてん…遊んでいても。キラット…きちんと。でげー…たいがい。ごたるのう…ようです。ゆうしちくるる…よくしてくれる。おんやん…兄さん。じゃき…ですから。ふんとえ…本当ですか。トッタン…父親。おじい…こわい。むげねえ…気の毒。ごたる…ようです。そりー…それに。しょわねぇ…せわわないです。

『鍬についた泥』

百姓仕事にゃよきい道具がいるもんじゃ。めえにち使うにゃ鍬や鎌ぁ欠かせんき日ごろん手入れが　さあちゅう時んまに合わんと困る事も多い。汚れたままにほたらっかしにしちゃる　雨ざらしんまま錆びちしもぅちょる。そげなんぬ見ると真剣しよるんじゃろうかち　相手ぅ見とうなっちくる。

『えーと済んだで　だつた』　子供が久しぶり加勢したなーいいが　ちょいとは元気ゆうしよったが　やっぱ子供じゃのう長続きがせん。『ひずかったのー鍬ぅゆう洗うちょけや』『よだきーのう』『鍬があったき仕事がはかどったんじゃろ　すまんち思わんか』『解った』　よだきそうに洗いよる子供。

『鍬は汚れたままにさるると仕事じ汚れたよりひじい』　ち言うごつ　使うたあたーちゃんと洗うち手入れしちょかにゃの』　いつじゃつたか山に花取りに行こうち　しがき鎌を出えたら赤錆びがべットリ。こりゃとてん使われもせんが刃がこぼるるじゃろう。人間ならどんくれークジューこぬるじゃろうか。

★　よきい…たくさん。めえにち…毎日。さあちゅう時んま…いざと言う時に。ほったらかし…そのままにしてある。そげなんぬ…そんなものを。だった…疲れた。ちょいとは…少しは。やっぱ…やはり。ひずかった…疲労した。洗うちょけや…洗うておきなさい。よだきー…大儀。はかどった…能率があがつた。ちゃんと…きちんと。しちょかにゃ…しておくこと。しがき鎌…木などを切る厚手の鎌。どんくれー…どのくらい。クジュウコヌル…嫌と愚痴を言い張る。

農具を大事にする人は仕事の仕上がりも　出来た物に感謝する気持ちも情愛がこもっちょるごたる。

『盆踊り』

まやん肥出しもダルカタゲもえーと済んだ。テレツトしちょると盆がてぶらじ来る。忙しい時い限っち手をタゴケーチ　つないでに足んツーも診みもろうたら　ツンムイチくれた。盆なゆつくりヨコイナーち言うんじゃろう。甘えチョリャセンカち言わるるごたるが　好きじ病気するなーあるめーき。

『こいさかる盆踊りん稽古しゅうえ』　青年しが言うち歩きよるき今年も　はずむんじゃろう。若ぇ頃ぁゆう踊ったもんじゃが　近頃ぁもう何うすんのんヨダキューなった。チクラマワサレちまじ踊つたのん　ほんこん前じゃつたがチュウラち言うし　ツッカケジャガ踊っちくれんなち言われた事もあった。

『誰に抱かりゅうか』　親が踊るもんじゃき子供が泣きべそかいちょる。たんびん事じ周りんしも気を利かせち見ちゃる。馬ん足ぅタデチ遅ぅなったしが　近所んしの着物ぅ借っち変装しちょる。皆が真剣見据えるけんど解らん　そりゅう面白ぅがっち笑う。ツキノに手ぶらじ来たでち言い訳するしもおる。

盆踊りん輪が出来たら皆が我てましに入る。『やっぱヤトヤンソレサか　いいのー』　昔取った杵つかち言うんか年季が入っちょる。『やんも入れ勿体ぶるな』　声うかけらるるんぬ待つちょつたごつ　賑やこうなっち輪が出来た。年寄りしが口説きだすと踊りが締まるし　人数も多ぅなっちきた。

『こんだ鶴崎踊りど若えしゃしゃんと踊れショボショボすんな』一杯機嫌の中年が太鼓叩きでーた。月も明りい盆踊りにゃ仏様も心かる喜びよるじゃろう。涼しい夜風が肌に流るる汗をしわっと撫でちくるるごたる。『ちょいとひとよこいするな』『ビラガアルキ』お接待がふるまわるる　焼酎も並べられち。

★　まやん…馬屋　畜舎。ダルカタゲ…下肥出し。テレット…呑気。てぶら…何も持たずに。タゴケーチ…ねんざ。つないで…ついでに。ツー…外傷の固まった物。ツンムイチ…外傷があって。ヨコイナー…休息して。ちょりせんか…ではないですか。あるめーき…ではないでしょう。すんのん…するのも。ヨダキー…大儀な。チクラマス…叩きまわす。チュウラ…不安定な心理。ツッカケ…急に。抱かりゅうか…抱かれようか。たんびん…たびたび。見ちゃる…子守する。タデチ…湯で足を和ませる。そりゅう…それを。ツキノ…着いてすぐ。手ぶら…土産もたずに。我てまし…勝手に。ぶるき…上品めく。ヤトヤン…口説きで踊る三さがり。やん…お前。ショボショボ…下品にするな　元気よく。でーた…出した。じわっと…じっと　静かに。ひとよこい…一休み。ビラ…ヤセウマ。

夜も更ける頃にゃ踊りん輪もだんだん広がった。浴衣姿ん若いしが増ゆると色気も増しちくる。薄化粧がゆう似合う娘はどこん娘な…年寄りしが色眼鏡じ見るとどうやら　嫁ご話もありよるごたる。一番美しゅうじ楽しゅうじ恥ずかしい年頃でんある。『親ん顔が見てーのー』　周りんしがどっと笑うたら　娘ん顔に紅がせーた。

『踊らんな入いんなー』　仲良し二人が人目をはばかるごつー目じ合図する。『うん』心ん中じ返事ゅするとスルーと後ろに入る。皆が認めちょるよーな仲じゃけんど　それはそれじ気を使う娘ざかり。嬉しい恥ずかしい盆踊りがいつまでん　こんままつづけられるぬ願うち。『休憩』　と月が雲間に隠れた　手を取りおーた二人ん姿が……

★　ゆう…よく。どこん…どこの。ごつー…ように。認めちょる…認めている。それじ…それなりに。いつまでん…いつまでも。おーた…あった。

◇◇水車小屋◇◇

水車にゃ人が集まるき話ぅ聞いち貰いてー時も　泣きてー時も粉をスル音が合いの手にもなっちくるる。若い嫁ごにゃ涙ん隠し場所でんある。どこん子かつぅじ来たぬ見りゃ　『親が怒っちネロージョタき』ち　ナカツカヤ。ナーエねがいいきじっとこらゆりゃいいに。なごんごつ辛抱すんのもいい。

張り回えーた蜘蛛ん巣に舞い上がった粉がちーち　機械が動くもんじゃきゆっさゆさ揺るる。じっと見つめた若嫁ごがため息ぅちーた　『辛抱しなーえ来た時ゃみんな一緒じゃーき』『はい』　素直に返事ぅすると何か救われたごたる。こげなしも来た時にゃもっと苦労したんじゃろう。そりゅう言いたげな気持ちが　若い嫁にさせとぅねーち思うんか。

『ちった仕事ち慣れた』『なんとか』『そーなナンサマやかましい姑じゃが根はねーんで』『はい』　必要以上な事ぁ言わんことにしちょる。苗半作ち田植えが済んじ在所に帰った日　母親が麦ぅ煮割りよる。孫がにーらんき忙しいごたるが　トッパイを出しち冷てーき食べなーち勧めちくれた。母なら親なら何か食べさせてー。

米がつき上がったしが袋になんこむ。『近ごろノネラが多いなえそげーねえ』　気さくに話かけちくるるき　『こん前見たわ』　話ん輪が広がる。『気をつけなーえ大事な所り食いつくで』　何の事か始めは解らんじゃつたが　大事な所ちゃあっこん事かちえーとそれも　水車小屋じ勉強が出来た。何かむずっとした。

機械ん音はやまんが人は入れ替わり　荷物は次々に変っち若い者はいつも　華やかな存在じ冷やかされたり褒められたり。時にゃ親ん憎たれぅ聞くと嫌気もするけんど　相づち打たれん。嫁ごどおしが出会うと顔がほっとする。元気な人やら素振りが心配な人なんかも　それぞれん家庭
が覗かるるごたる。

隣ん娘がきなこすりに来た。『姉さん来ちょつたんな』『今朝かる麦つきになあ』『旦那さんがここならゆっくりさるるき　気を利かせたんじゃろ』　言われて見りゃそん通りかん知れん。『そうで優しいき』『ごつぞうになりました』　おおらかな娘はやんがち嫁ぐ事になっちょる。親しくする人にゃ他人でん姉さんち呼ぶ。

『もうシコゥは出来たんな』『なまかた出来たけんど銭もかかるき　あんまり甘えられんき』『親思いじゃなー甘えよ』『うん』何でも話せる人がおる幸せぅまざまざと思う娘。『なー初めちん晩どげーじゃつた』『ちゃー私に聞くかえ　お母さんに聞かにや』『いんげ　姉さんのほうがいいき』

そこまで信じて貰える幸せ人生なら　この娘の将来の為にも役立つ事は力に。『心配せんぜんいいき優しぅ相手に……』『そうなそれじいいの』『……』　返事に困ったが　隠すのん卑怯じゃき心の絆を信じちくるるのに。『それかるなー……』　こまごまな事も不安のねーごつ話すと　『やっぱ聞いちよかった　姉さん』

★　どこん…どこの。つぅじ…飛んで。ネロージョル…睨んでいる。なーえ…ほんとに。根がいいき…正直者。じっと…おとなしく。こらゆりゃ…我慢すれば。ナゴ…雇い男。回えーた回した。ちーち…ついて。ゆっさゆさ…揺れている。こげなしも…こんな人も。そりゅう…それを。なんさま…何分にも。苗半作…半分できたようなもの。煮割…煮て柔らかく。にーらん…眠らない。トッパイ…とーふ。なんこむ…な投入れる。ノネラ…野ネズミ。あっこん…あそこの。ごっそうに…ごちそうに。やんがち…やがて。しこー…準備。なまかた…だいたい。どげー…どんな。いんげ…いいえ。それかるな…それからです。

『神　仏　遍路』

田舎にゃ人情が根強いきそん人たちん中心にゃ　神　仏なんかが心ん支えになっちょる。氏神様がどこにもある　お寺にゃ先祖が入っち護られちょる。同じ系統んしたちん先祖もまつらるる　先祖墓もある。そこに集まることし気持ちが休まり　連帯意識も高まる。素朴な行事もそげなのを中心にゆうする。

今年ゃ雨が少ねえき『雨乞い』をせにゃなるめー。明日ん朝集まっちくれ　キモイリがフレち来た。ハダシンバラじ足ぅヒキジッチ。『昨日仕事ぅフトロクセしたもんじゃき』　言い訳しちハタカリ苦笑いしよる。『あんまりハブトカヤサンジせにゃ』『ホキん草をえーと切ったもんじゃき』

地蔵様がござっちょる所い行く道が　チシカブッチョツチ困るじやろうき。年寄りしが参るにゆうしちょかにゃ　ヘッチコッチ年寄りが先すりゃめんどしい。『草がホートロクセきのや』『まあいい事もあるわい』　向こう坂かる遍路さんがおれち来た。鈴ん音が響くのん平和じゃきいか　どげな運命を背負っちょるんか。

『庵はどこにあるんじゃろうか』『すぐそん先じゃき右さね』『おおきに』頭をさげちまだ若えごたるが。ボード見かけん姿に見送るとイドラん株ぅほたった。ハッチー姿に物貰いん人間像があるのん　それぞれの生き方を歩くんじゃろう。ちっとヒドルと鈴ぅ鳴らしち般若心経を唱えでーた。

『腹がおけたか』　孫が呼びに来たぬ見つけち　『早ぅ帰いんなーと』『フゴーが出たんか』『知らんで』　米ん検査があったんじゃが　どうでん米選機下が入ったんか。『小作米にゃ悪いきヒョウロウにヘセ』『せっきはしょわねーな』『そん時ゃそん時ん風が吹くわい』

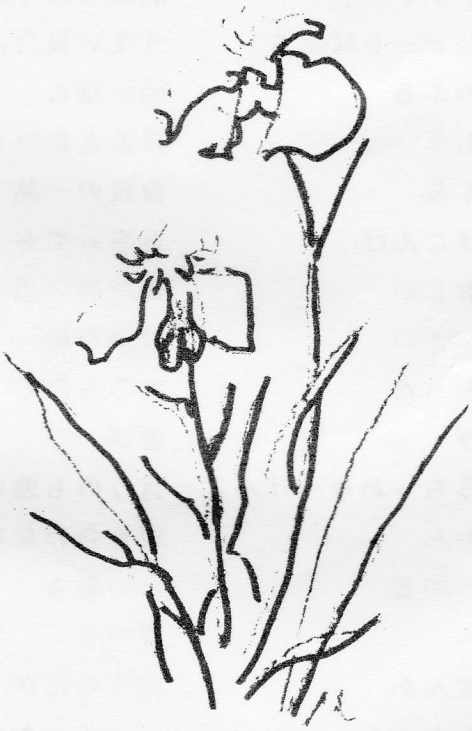
『今日はお寺参りな』『久しぅ行つちょらんき参ろう』『先祖が喜ぶで』『早ぅ迎えに来ちもらわにゃ』『またソゲンコツー言う』村ん辻にゃいつでん人ん話し声がある。『今年ん祭りにゃ神楽ぅあぐるかのお』『毎年ん事じゃきせんと悪う言わるるど』　世話役が気になるんか相談ぬしよる。

『ソボサンも来るのう』『早めに草きりぅしちょけや』『やんかた手ぐみがいいきのや』『こんだ身持ちなったごたるわい』『やそりゃ又めでてーのう』　いつも順風とは限らん。じゃき良いときにゃ困るしを助けちょかにゃ。『ほんな手間がいしゅうか』『そげーしちくりー助かる』

★　ゆう…よく。キモイリ…世話役。ハダシンバラ…素足。ヒコジッチ…ビッコ。フトロクセ…たくさんな。ハタカリ…股をひろげ。ハブトカヤサン…元気を出しすぎる。ホキ…端っこ。チシカブッチ…覆いかぶさる。ヘッチコッチ…反対に。ホートロクセ…本当に多く。右さね…右の方。おおきに…ありがとう。ボード…全然。イドラ…野ばら。ほたった…捨てた。ハッチー…物貰い。ちょつとひどる…少しさがる。ハラガオケタ…腹一杯。フゴー…不合格。どうでん…どおしても。ヒョウロウ…食べ物主食。ヘセ…減しなさい。せっき…年末。もらわにゃ…貰わないと。ソゲンコツー…そんな事を。いつでん…いつでも。ソボサン…信心の神様。やんがち…やがて。いいきのや…よいからなあ。身持ちなったごたる…妊娠したようで。手間がい…加勢しあう。そげー…そんなに。ちかにゃ…ておかないと。

日頃んいのちきん仲にゃ神　仏が人間になっちょるんじゃろう。時にゃひじい目に合うのん仏ん鞭かんしれん。耐え忍ぶんが人間の肝試しかん。神が側かる支えちくるるなんか甘えは許されん。人間の努力こす神　仏ん御利益じゃろう。村ん辻は勉強ん場でんある。

ほうしゅんじ単語



方言単語

《あ》	あけがた	夜明け頃
	あしぅたずる	足をぬるま湯で温める
	あて	心から信じて
	あしゅうさいだす	足を投げ出しち指図する
	あかねこ	根性が悪い
	あわつる	あわてる
	あくじる	灰のあくを取ったもの
	あわず	冗談
	あらしこ	若い元気者たち
	あおびょうたん	顔色がさえない
	あとかる	あとから
	あんげさね	あちらの方に
	あげざかや	酒の小売り店
	あんじゅーおぼえち	うまい具合に覚えて
	あいめふる	雨が降る
	あーもう	ほんとにいらだつ
	あとくち	食後の一品
	あんげこんげ	あちらやらこちらやら
	あとおじい	後で怖い想いがする
	あいぶさい	愛縁奇縁
	あっちべた	あちらの方
	あすび	遊び
《い》	いゅうちゃわりーけんど	言うのも悪いけれど
	いろわん	取り合わない
	いいつのる	言い張る
	いどら	野バラ
	いうてんが	言うのだが
	いつもかつも	いつでもかつでも
	いっこも	少しも

いっちゃねー	行ってはいないが
いつでんかつでん	いつでもかつでも
いちのくれ	暮れて間がない頃
いび	水の入る口　場所
いぃうち	いいですよ　私
いってんきて	いつでも来てください
いっかいり	行く帰り
いくとくるとじゃ	行くのと来るのでは
いどさらえ	井戸の掃除　水かえ
いつんなかめー	いつのまにか
いもり	井路の番人
いまごらー	今頃は
いどらぼたん	とげのある野ばら
いになー	帰りなさい
いぬるど	帰りますから
いびらもち	いびら草の根で作った餅
いでもち	てつでも
いれぐすり	家庭に委託してある売薬
いのこばた	井戸の側
いらんしょわ	おせっかい
いろーちょけ	取り合わずにそっとして
《う》うしぐつ	牛の爪をいためないようつける草履
うらもどし	裏側から戻す
うっぱらう	激しく追い払う
うっぷるう	激しくふるって
うぶる	加える
ううどり	多取り
うっするな	捨てるな
うだきもうさん	抱えられないほど大きい　太い

うだきそこねた　　抱く事が出来なかった
うめかけ　　埋めながら土をかける
うみ　　怪我した所に出る膿
うめうち　　草などを埋めながら耕す
うらなり　　枝の先の方に実る
うめだち　　埋めてすぐ

《え》
えりき　　磁石
えぐーじょる　　曲がっている
えーくそ　　意に添わず腹立つ
えー　　なんですか
えごがわりー　　笑顔でない様相
えーもう　　本当にもう
えんりょひもじい　　遠慮したばかりに食べたい
え　　絵　柄　餌

《お》
おけそぼくる　　起きた時の目覚めが悪い
おう　　よう　親しい人に挨拶
おてしょ　　小皿
おてでーた　　落ちて来たよう
おじもんなし　　怖いものなし
おー　　返事　分かった　親しい人に
おずる　　怖がる
おしのり　　飯粒で押し練りしたもの
おばみ　　大げさに見聞きする
おさい　　おかず　副食
おおけ　　思ったより多い
おとんこもねー　　全く音もしない

《か》
かいじゃくし　　貝を利用した杓子
かいたて　　買って育てる
かたし　　椿の種
かけめ　　計量

かなぐつ　馬の足につける爪保護の鉄草履
かくる　かける
がらんねえ　その人とは異なる
かつる　加える
かきあわん　間に合わない
かむちくせ　構わないで
かかじる　掻く
かんねもち　くずの根から取るデンプン
かさ　量　重さ　升目　上の方
かたげや　担ぐ仕事をする人
かきー　かけなさい　掛けて
かき　御輿を担ぐ人の呼び名　掛
かきむしる　掻いて皮膚を痛める
《き》きちょった　着ていた　来ていた
きたに　来たのに　着たのに
きく　効果
きちょつたで　来ていたのです
きりよる　着ています　来ている
きちょる　着ている　来ている
きさじい　あっさりしている　早い
きーかん　金柑
きびがわりー　気持ちが悪い
きらけーた　切らしている　切れた
きさがいい　後味がいい
《く》ぐろ　回り
ぐうたろう　怠け者
くちやしぼ　食べる事が好きな　構いなくたべる
くらすみ　暗闇
くいやいこ　食い比べ
くー　食べる
くえと　田畑の壊れた場所

	くちゅうさいだす	話に口を出しす
	くちがきいちょる	話の上手な
	くるわるる	叱られる
	くべる	燃やし加える
	くぶる	燃やし加える
	くちゅうぬぐう	黙っていれば分からない
	くちゃね	食うては寝る
	くちがかてー	いらぬ事はしゃべらない
	ぐるりぐるっと	回り一面
《け》	けつんすがこめー	しみったれ　細かい性格
	けごーしち	怪我をして
	けっくりかやす	けって倒す
	けんかばえー	喧嘩が早い　乱暴
	げらん	毒薬
	けっかいい	なかなかよい
	けんつくでっぽう	誰にでも反対意見を見せる
	けじめくせー	布類の焼ける匂い
《こ》	こ	子　粉
	こしいわりにゃ	がめついのに案外
	ころげち	転んで
	こみせん	材木の継ぎ目に刺す木の栓
	こげんじゃき	こんなふうだから
	ごもくならべ	囲碁の遊び並べ
	こずきまわす	叩きいじめる
	こねぼう	祭り山車を方向転換する時の棒
	こえくみ	肥やしを汲む
	こやしくみ	肥やしを汲む人
	こんちくしょう	腹立ちまぎれの卑下した言葉
	こがし	麦をいって搗えた粉
	ごじんなえ	荒神様に供える田植え苗

	こんげどり	こちらの方に
	こしこ	これだけ　このくらい
	こんもなる	萎縮する　小さくなる
	こたえん	効果がない
	こんがきたれ	相手を卑下した言葉　憎しみ
	ごくどう	悪がき
	ごっぽり	すっぽり　まとめて
	こさぎあつむる	周りすべてを集める
	こしがきるる	品がいい　力を出し切る
	こぎたねー	汚ならしい
	こしゅうつくる	はったりしてみる
	ごたる	ようです
《さ》	さかくじゅうこぬる	反対に苦言を言う
	さらばか	卑下した抽象言葉
	さけゆと	酔っぱらい
	さいぜん	さきほど
	さー	どうでしょう
	さぶた	水の入り口のせき
	さね	陰核
	さらゆる	繰り言を言う
	さぶる	選別する
	さらえ	溝などの汚れを取り除く　繰り言
	さでくりまわす	手でかき回す
	さえん	側にある畑
	さぶる	選別する
	さべる	選別する
《し》	しっちくせー	知るものか
	しぼなゆる	萎縮してしまう
	しゅうえ	しましょう
	しも	下のほう
	しゃべる	サーベル

しーちょる	好いている
じびきー	低い　背が小さい
しみったれ	けちんぼう
しらんま・	知らない間に
しかぶる	漏らす　しそこなう
じぶん	食事頃
しのごの	いろいろ
しゃつてむて	無理やりに
しこんじょう	見かけだけで
しりぬぐい	後始末
しみったれ	けち　よくばり
じきたび	地下足袋
じゅうろくむさし	子供の遊び陣とり
じぁあーき	ですから
しちょる	している
しぶうち	網の保存に使う渋ぞめ
しらしんけん	本当に真剣に
しょわしゅうおらぶ	うるさく叫ぶ
じなしごろ	わからずや
しもぅた	しまった
しゃんとこべー	しっかり者
しっちくせー	知らないから
しーら	実の入っていない物
しとめん	手におえない
じわっと	静かに　こっそりと
じき	すぐ
しゃんとしちょる	しっかりしている
しこる	繁る　派手に飾る
しいる	無理じいする
してふーで	したい放題

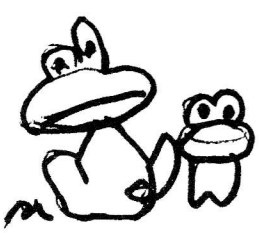
《す》すむ　潜る
すく　網を手編みする　間があく
すそ　女性の性器
すこ　もたもたする
ずいき　里芋の軸を乾燥
すべたりこくる　滑って転ぶ
すかんたれ　本当に嫌い
すっとこどっこい　滑稽者
ずんど　どうも　とても
すーたん　どうにもならない
すくるる　疲れる
すいばんこ　水番
すみ　角
すまくろ　隅っこ
《せ》せんばいい　沢山数を束ねる
せりくりおーち　押したりせったり
せりこむ　押し込む
せきたんばこ　木製の箱　りんご箱
せんすら　中途半端もの
せんでん　しなくても
せつげねー　情けなくて
せわがる　世話をよくする
ぜにじかえん　人情誠意
せまぎる　横車
せっせ　精出す　努力
《そ》そんなー　それをです
それじゃき　ですから
そん　その
そんすら　冗談ばなし
そー　です
そうじゃなー　と思います

	ぞーこんねー	とてもとても
	そりゅーそんげ	それをそちらに
	そりこす	それこそ
	そこらそんげ	そこらあたりを
《た》	たくる	引き寄せる
	だてさみー	見え張り
	たらずみ	不足分
	たぁー	それは
	たばこたぶるな	たばこ吸いますか
	たぶる	食べる
	たまるか	どうにもならぬ
	たまらんき	とても　どうにもならないから
	たってん	立っても
	たいこんばち	太鼓叩きの棒
	だっう	盲人
	たから	銭　おあし
	だまし	ごまかす
	たぎる	煮え立つ　怒りが最高に
《ち》	ちかよれん	近づけない
	ちょこっと	ほんの少し
	ちのみち	女性特有の病気
	ちりぢりばらばら	てんでに
	ちめてー	冷たい
	ちわっと	しか静かに　そっと
	ちちくる	戯れる
	ちっと	少し
	ちょろーか	でしょうか
	ちちぶ	植物のよびな
	ちちぼ	植物の呼び名
	ちょこしごと	酒飲み

《続きは７７頁に》

チョト

いっぷく



ここらじちょいと一服してんいいか　五助さんの横顔かるこぼる笑顔。方言が無意識んうちー飛び出るのん　皆が真剣方言に親しみと愛情をもっちょるきじゃろぅ。一服するなかめー面白い話ぅまとめたきー　まあ読んじみちょくれ。

◇◇　『七草』

春　セリ　ナズナ　ゴギョウ　ハコベラ　ホトケノザ　スズナ　スズシロ

夏　ツユクサ　ツメクサ　ヒメジオン　スベリヒユ　アサガオ　イノコズチ　アサゲイトウ

秋　キキョウ　ナデシコ　オミナエシ　フジバカマ　オバナ　ハギ　クズ

◇◇　『天気予報んはじまり』

明治７年６月１日《１８７４》　かるはじまったとのこと。

◇◇　『電気ん柱…電柱』

昭和２７年かるコンクリート製になっち　年間２７万本作りよる。平成１１年現在の記録かる。

◇◇　『洗濯物リサイクル』

衣類の再度利用…修理繕いして使い　あて布…雑巾…肥やし…燃やして…灰汁に。

◇◇　『生理帯』

ゴム製猿股式月経帯の広告が出たんが　１９０９年《Ｍ４２年》　天下の婦人に提供する　と書いちある。衛生上からん《子宮病　生殖器病など発病の原因となるものを防ぐ》　三得具。ハイカラ箱入り一個１円５０銭。送料８銭。ち言う。いちいち外す手間のうじ洗たくも便利　子宮ぅ温め肌障りもいいとてん希なハイカラ製品。そうな。

◇◇　『全国のユニークな方言イベント』

津軽弁の日…津軽弁やるべし会《青森市》
やっぱりいっすな秋田弁見本市《秋田市》
全国方言大会《山形県三川町》
方言によるシエークスピア劇《仙台市》
いっちゃね仙台弁《仙台市》
名古屋弁を全国に広める会《名古屋市》
なにわことばのつどい…大阪
土佐弁ルネサンス事業　土佐弁劇場など《高知県》
大分方言まるだし弁論大会《豊後高田市》
佐賀にわか塾…佐賀
薩摩郷《狂》句大会《渋柿会など》
奄美大島島ユムタ発表大会《名瀬市》
島口大会《徳之島町》
ラジオ沖縄《方言ニュース》方言での芝居など

◇◇　『やせうま』

八瀬ち言う乳母が和君に作っちゃつた故事かる。挟間町が発祥の地との説もあるけんど各地各様ん作り方もある。野津原じゃ痩せ馬に似ちょるきち言う説かるきちょる。

◇◇　江戸期のあかり

行灯にはナタネアブラをつかうけんど　ケックシャ高えき買えんじゃつた。なるたけ昼間ん明りい時ぃ用事ぅすますんが生活んコツ。漁油もあっち安いき使うが　こりゃー匂いがあったき風通しぅゆうしち使いよった。行灯の明かりゃ今ん６００ワツト電球ん１００分の１ぐれーん明かりじゃつた。

ローソクは当時ゃ上品な明かりじ　１００匁んが２００文。ソバが１６文ぐれーじゃき　でーぶん高ぇもんじゃつた。月明かりん明るさは１５夜なんか　特別じ自分がん影がゆう解っち　夏どまキラキラ蹉跌がゆう光よった。

戦争が済んじ灯火管制がせんじゆうなった時　あん明りい灯は何んかにん明るかったち言ょつた。今でん街灯がぽつんとのぅなった道じ　月明かりが美しいのん　どんくれー明かりが大事かゆうわかる。

ホタルイカがゆう光るが　こん光りゃ幻想的じ夢んごたる。

◇◇　参勤交代道徒歩の旅

熊本んしなんかが昔ん肥後街道ん　大分…熊本ぅ歩く会が毎年されちょる。盆の１５日に皆んながバスじ鶴崎に来る。ここじ史跡なんかを見学した後バスじ野津原に到着。公民館に泊まっち近所ん盆踊り何んかじ交流。１６日朝早ぅ出発しち熊本まじ７日間かけち歩く。途中じ朝ご飯ぬ決まった家じ食べち　昼前に今市んお寺に着く。こん日は温見まじ歩き小学校に泊まり　熊本まじ元気に歩く姿が夏ん風物詩になった。

◇◇　『方言放送から』

方言にとてんくわしい先生ん話によると　大分ん方言な九州んどん県よりも　アクセントが東京に近えらしいち言う。
そりゃ大分県のしのしゃべりかたが　九州らしゅうねーいいかたじ　九州特有んもんかる離れちょるごたる。それだけ海かるん入るのが多かったんかん。風が瀬戸内ぅこんげさね吹くに　乗っち入っちくる…ゆうわかる。

それかる同じ大分でん　地域によっちでーぶん違うちょるのん　面白い。海　山　高さ　低い　なんかじ違うが　それに小藩分立があったからかん知れん。地域方言が生まれたのん　ほんの土手越しじもう違う。わだっと他所ん言葉は使わんそげな事も　あったんじゃなかろうか。今考えち見りゃ愚かん話じゃけんど。

喧嘩ごしんような言葉使いじ　気持ちはあるんじゃに省略するき《それじ意味が通じるき不思議》　敬語ん要素が少ねえとん言う。語尾ぅさぐる言い回し　尻下がりん言葉が　特徴を持った話し方にもなっちょる。テンポも早えき上品な言葉でん　なんか荒々しゅう受け取られち損ぬするごたる。

元気がいい使い方もするき　言葉ん発音ん変化がとてん目立つのん言える。

『よだきー』　は西日本に多いごたる…兵庫　鳥取　広島　愛媛　長崎　鹿児島なんかも。

方言にゃ暮らし言葉…ふだん着と　共通語…
他所ゆき言葉があるごたる。

古い諺　名言　名句かる……

蓮は泥沼ん中ぇ育つけんど　泥沼に染まるようなこたーねえ。

美くしゅう磨かれた靴ぅはいちょるしは　はじめは用心しち歩くけんが　ちょいと足ぅ踏みはずすともう　今までんごつ用心せんごつなる。そいちそん靴が汚るりゃもう　たへらくんごつ平気じ汚しち歩きだす。

悪い方に行くなあ人数も多いゆうじ道も歩きいいが　徳義ん頂上に行くなあ　汗うけーち苦労せにゃならん。

時としゃべった言葉は　よびもどすこたー出来んる

誰でん時間の大事なこたーゆう知っちょる。秩序ん大事なこつーも分かっちょる。じゃけんがこん両方がどげな密接な関係か　自覚しちょらん。まっすぐな秩序は時間ぬ倍にする…そりゃーひんしの時間の使い方を助くるき倍加する。

美しい姿は美しい顔に帰る　美しい行いは美しい姿に戻る。

人ん天才はみな同じじゃが　徳が区別しちょる。

誠実なこたー最後ん勝利　内に誠がありゃー他に現るる。

自分が親切に愉快をあげちょきゃ　利子ぅもっち自分にかえっちくる。

葦ん揺ররんにも音楽がある。小川んせせらぎにんやっぱある。耳うかたむくりゃ皆音楽じゃこと。

馬子唄 街道ばなし

『白山雨乞い』

もう２０日以上も雨が降らんき　天水がかりどま干割れち稲んやつも枯れちしもうだ。『雨乞いするき明日ん朝集まっちくんなー』肝いりがふれちまわる。皆も待っちょつたきシコすると　朝早ぅ集まっち来た。今日もぎらぎら照るごたる青空に　汗がもうたらたら流れでーた。五助さんがん話がはじまった。

『まれけしか合わんがさかしいか』『目のこしがおれちしもうたわい』『水がやらとねーきのや』『わだやく水つりー行きヤンガチ来るち草ぅむしりよつたら　どいつかワヤクしたごたる』『もうじき来るはずん水がワヤジャ』『よごーじヨダキーンカとつとこん』『そりゃー悪いとんドイツか見しけ回しち見よ』

『わっそどーならむこぅずらぅチシマワスが』『まどえち言わにゃこつちがヤリツケチしまうき』『雨乞いじ雨がありゃちった助かるがのぅ』　どげえもならん自然の摂理に頼みは神様。集まったしが割木ぅ組み上げち火をつけた。皆が唱える祝詞に続く般若心経。黒煙りが木立ちん中かる立ちのぼる。

雨を呼び寄せる竜ん姿が先にゃ見ゆるち言う。めらめら燃ゆる火と煙りがあたりじゅうを包むと　願いは天に通じるのか雲がタナビく。今水がのうなりゃーもう半作もかなわんかんしれん。一心に祈る気持ちが天に通じたんか　巡り合わせの運命が寄り合わせたんか。唱ゆる心経の声が一段と高まる。

当たりが暗闇んごつ護摩焚きん煙りが包み　百姓ん気持ちが一途になった時　神は必ずや褒美の何かを恵んでくれるのでは。待ち望む雨のひとしずくが今の運命転換を　左右するんじゃけん涙で顔も別人のごつ。えーと護摩焚きが終わった茫然とした人　顔　人　と西の山に雲が広がっち稲妻が走った。

五助さんがここまじ話したら外でん雨が　ショボショボ降りでーた。百姓は水がねーとどげーもならんきのや　皆目をくりくりさせち『そぅじゃそぅじゃ』ち　相づち打っちくるる。稲妻ん後にゃもぅ小粒ん雨が走りでーた。『早ぅ帰っち洗たく物ぅ入れにゃ』『濡れてんいい焼けたごたーねーき』　皆どっと笑うた。

本降りにならんでんイットキ荒降りすりゃ　助かるばかりか葉に潤い土に湿り心にゃ悦び。こげな嬉しいこたーねーのう　笑顔が久しぶりー戻っち濡れた着物も輝いちょる。薄化粧も護摩焚きん煙りにフスボッタが　それがけっくしゃエエラシイ。嫁ご姿を想像すりゃ胸ん膨らみもでーぶん大きゅうなった。

雨乞いじ水が出来ると気分的にん豊かになる。あっちみーてん人んいのちき　ムリシャコしてん天気にゃ勝たん。ミシケまえーてんねえ水ぁどげーもならん。何か信じおぅち支え助けおうちユク時にゃ　道も開くるんじゃあるめーか。白山ん森に煙りがえーとのうなったんと　時ぅ同じぅしち田んぼにゃ水がけっくしゃたまった。

★　天水かかり…自然の出水の田。しもぅた…しまった。くんなあ…ください。ごたる…ようです。まれけ…たまに。さかしい…元気。目のこし…疲れ。やらとねーき…ほんとにない。わだやく…折角。つりー…連れに。やんがち…やがて。むしり…取る。どいつか…誰か。わやく…いたずら。わやじゃ…駄目じゃ。よごーじ…曲がって。よだきーんか…大義か。とっと…ほんとに。悪いとん…悪いから。わっそどぅ…俺たちは。むこうずら…顔の面。ちしまわす…叩く。まどえ…弁償せよ。やりつけた…片付いた。どげえも…どうにも。のうなった…なくなる。するんじゃけん…するのです。ここまじ…ここまで。どげーも…どんなにも。ごたーねー…そのようにはない。ならんでん…ならなくても。ふすぼった…いぶす。けっくしゃ…結構。みしけまえーち…見つけ回して。えーとやっと。けっくしゃ…結構。

『街道商いくらべ』

五助さんの話にゃ方言の温もりがあっち　どげな悪いしでん憎めんごたる。それだけ人を信じ相手ぅ大事にしよるんじゃろう。今日は街道んあっちこっちある『商い』ん話。雨もえーとやんだごたるが潤いにゃよかった。百姓しも水がありゃー稲もゆう出来るき　心ん落ち着きも出来ちコイサ一杯飲むか　焼酎でん。

今市　野津原は宿場町じゃき便利んいい店もあった。ほかん所にゃ駄菓子を売る店が草鞋やら紙なんか　そりー食い物もけっくしゃ売れよったもんじゃ。一の瀬ん『魚すし』今市ん『いなりずし』饅頭があったり　一里ん玉　アメガタ　今市ん『そば』　野津原ん『ケンチン汁』　ばぁさんが前かけきちんとしめち　手拭いがゆう似合うちょつたのー。店先ん縁台に座りぶとんがある　『てぼんじいいなえ』　五助さんな顔なじみじゃき茶をくるる。『いいとん茶だけじ』　気さくに受け答えするのん気心がしっちょるきか。

『今日はどこまじ行ったんな』『久住ん荷ががいとあっちダッタけんど　商売じゃきなえ』『そーとんあんまりクジュウ言いなんなえ』『くじゅう言うと久住しにわりーなえ』『ちゃあらーどげしゅうのー』『そりーみやげぅくれたき　娘に持っち帰りよるがチットヤルワナ』気さくな五助さんな土産ん包みぅ広げさげーた。

茶店ち言うてん間に合わせん店じゃが　それじ結構いのちきも出来よった。旅んしが立ち寄ると話も弾み行き帰りに寄ると　『ちっとまけちょくで』『すみませんな　ほんの気持ち』　と土産の一つもおいて行く。人情がこまやかじ渡る世間に鬼はないち　ゆう言うたもんじゃ。途中じ病気でんすりゃもう世話になる。それこす泊めちもろうたりすりゃ情愛も深ぅなっち　お礼にと後じ贈り物が来たりもしたもんじゃ。五助さんも優しいきゆう世話をしち喜ばれよった。

坂ん途中ん茶店じゃ汗よけに人間だけじゃねー　馬も時にゃよこう。岩ん間かるチョロチョロ出る水は　喉ぅ謡ぅち通るごたる。旅んしが『チョウズバを貸しちょくれ』　馬んはみんニージンなねえな。入れ薬一服くれなー　人ん出入りが激しいなー商売繁盛。娘が愛想ゆう立ち働くもんじゃき　若ぇしもゆう寄っちくる。

こんめー赤え旗がひらひらしよる。風邪がひんやりすりゃよこうしも　ダリが抜けちくる。『昼まじ野津原まじ行きてーが』『ちっと無理かんしれんが　下りじゃきわきゃねーで』　石だたみぅ歩くとすぐ矢の原…野津原。上っちきたしもここじ休憩しち今市まじ行き来んしん話が弾み旅ん列も流れち行く。

『アメガトウちっとくれなー』『キンボウがあるで』『え　きたんなほんなそりゅうくれなー』『あんたかたん　おみつが好きじゃつたなえ』『もう目がねーじ』　五助さんがん土産が娘ん悦び顔に変わる。親が娘を思う頃にゃ娘も親ん好きな　こねりぅ作るシコーしちニガウリぅちぎりよった。

★　じゃろう…でしょう。あっちこっち…あちらこちら。えーと…やっと。コイサ…今晩。じゃき…ですから。けっくしゃ…結構。てぼん…盆を使わず手で。くるる…くれる。いいとん…いいです。どこまじ…どこまで。がいと…沢山。ダッタ…疲れた。そーとん…そうです。クジュウ…愚痴。ちゃーら…アラマ。どげーしゅう…どうしょう。チット…少し。ひろげさげーち…広げてしまう。まけちょくで…安くします。ひょいと…不意に。汗除け…涼む。謡うち通る…満足で。チョウズバ…便所。くれなー…ください。こんめー…小さい。よこうしも…休憩する人も。ダリ…疲れ。まじ…まで。わきゃーねぇ…簡単。アメガトウ…飴。キンボウ…砂糖菓子。きたんな…来たの。目がねー…真剣好き。こねり…小麦粉利用の料理。

そん頃にあった店屋は生活用ん　油　酒　糸　鍛冶　染物　塩　草履　わらじ　質　駄菓子　なんかの商売。宿屋にゃ行列ん時ん宿んほか　普通ん旅人ん宿　安い木賃宿　薬屋などが常時使う常宿。簡単な飲食ん出来る・飲食店　料理屋　馬子なんかが利用する一膳飯屋。旅僧なんかが泊まる寺　物貰いなんかが利用する庵　社　神社なんかがあった。

持ち込みや振り売りする…魚屋　入れ替えする…薬屋　病気なんかを祈とうじ治す…祈とう師　厄よけする…荒神払いなんかも仕事にしち来る。

百姓が多い所は　野菜　味噌　しょうゆ　豆腐…トッパイ　油揚げ　コンニャク　なんかは自家用に作り　自給自足も多かったごたる。

それでん物と物の交換もあっち大豆と変える　菜種と変える　米と変えるなんか　生活ん基盤は米でん　そげなんを介しち生活用品を手に入れよったごたる。

幕末になると生活もてんしょむしょ向上しち　金が基本になったき働いち収入じ買い求むるように。地主に田を借っち作る小作人にゃ　小作料が高えき　なかなか頭ぅ出せんじゃつた。こん悪習は戦後ん農地開放まじ尾を引っ張っちょつた。やっぱ百姓はいつん世でん苦労に甘んじるんか　それじゃ悪いになえ。

★　行列…参勤交代。振り売り…担いで売りにくる。あっち…あちら。菜種…菜種油に変えて明かりに使う。そげな人…そんな人。てんしょむしょ…とてもすばらしく。小作料…地主に一定の借り賃を納める《出来の善し悪しに関係なく》農地開放…戦後小作者に農地が安く開放された。

『五助さんが眺めた食いもんあれこれ』

五助さんが話がでーぶん昔になったかち思うと　こんだ新しぅなったけんどこれも面白い。食いもんち聞いち思わん襞ぅ乗りでーた。

百姓ん朝飯ぁ味噌汁　漬け物んが相場じゃつた。囲炉裏ん周りに家族が取り囲うじ食う。茶釜にゃ湯が沸きよる　親父が上座に座りゃ母親　嫁ごは板敷きに座る。すぐ動くことが多いき習慣になつたんじゃろうが　家長たる親父を大事にするしきたりでんある。ナゴん居る家じゃ女ごしん横に座る。《ナゴ…住み込み働き手》

昼飯にゃ漬け物に時折ん野菜ん煮付け　めったにねーが魚でん買ゃチットンズツつく。茶をかけち食う麦飯じゃき腹一つでん３杯ぐれーは当たり前。お膳箱があった頃ぁそんまま入れち積み上ぐる。洗うなぁ晩の飯が済んだ時に。夕飯ゃてーげーダンゴ汁に決まっちよる。朝ん飯が昼食うち残りゃそれも主なしが食う。

祭りにゃ魚があったりするが　主なもんな餅　うどんなつきもん。そりー焼酎がウンスケじ上がっち近所皆じわくる。祭り餅ぅイケウチに子供に持たする。盆にゃヤセウマ　ダンゴ　ソーメンがつきもん。正月にゃ魚が皆につく　餅ぅついち野菜なんかん煮染め　酒焼酎もついちょる。《ウンスケ…焼酎をつめたかめ》

季節ん漬けもんにゃ大根　白菜　カンラン　ラッキョー　梅　たかな　味噌漬なんか。甘いもんが好きな家は　甘汁　甘酒　その他トロロ　魚味噌　ドブロク。祝いにゃ紅白ん餅　アズキ飯　煮付けがある。葬式じゃ精進料理ぅ組み内んしが加勢しち　作りオトキの膳としち故人の最後ん食い物に並んじもらう。

★　いけうち…シンセキ。甘汁…ぜんざい。ドブロク…自家製の酒。オトキ…故人最後の食事会の風習。アズキ飯…赤飯。

『鈴ヶ滝ん恋の花』

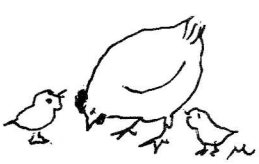
『しょわーねーな』『真剣手をトラマエチョンナーエ』　若い二人が水しぶきゅう避けち入っち行く　せせらぎにゃ足にひんやり気持ちいい感触。『おじいー』娘がしっかりと抱きちーた。『心配せんでんいいき』　逞しい腕が日焼けしち見るからに頑丈。滝の水音にかき消さるる囁きが　通じあうんも好きじゃきじゃろう。

しっかり抱きしめた手を緩むると浅瀬に引き寄せち　『ここならしょわーねーで』『いんげおじい』　甘えがあるごたる言葉んはじに　男もいじらしい眼差しじ見つめ　『冷とうじ気持ちいいなー』『昼んダリが一遍に取るるごたる』『無理ぅしちハリコミヨルんじゃろう病気するで』『あんたこす無理ぅしち』

抱き寄せち黒髪ぅ撫づると乙女ん本能が燃ゆるんか　身悶ゅしながら擦り寄る。ウナジんおくれ毛が水しぶきん風に揺るると　異性ん温もりが水の中だきーに特別伝わる。白い肌がまともに出てくる足もとに　水草が何か言いたげな流れかたをしち行く。木こぼれ日が二人に優しぅ照り映える滝。

『こいさあっきー来らるる』『いーで親父にゃ何ち言うん』『だまっち出るき　義姉さんが気を利かせちくるるき』『気をつけなーえ』　夜が待たるる二人ん束ん間ん逢引。それも義姉がいいから。幸せな人生縮図が垣間見らるる　鈴ヶ滝ん一時は若い二人にゃ思い出ん時間。それが人生かん知れん。

★　トラマエ…掴まえて。おじい…怖い。抱きちーた…抱きついた。しょわーねー…大丈夫です。いんげ…いいえ。ダリ…疲れ。ハリコミヨル…頑張っている。
だきーに…だけに。こいさ…今晩。



『母の送ってくれた膏薬』

『アカギレがきれちょりゃせんな』　母から馬子ん五助さんに頼んじ送っちくれた膏薬。冷てえ水仕事にゃこたえんが　子供んこるかる弱かった皮膚　そりゅーちゃんと知っちょる母が。『おおきに元気じったじゃろうか』『さかしゅしちょつたで若ぅなったごたるで』　それは気休めち解っちょつてんほっと救わるる。

もう半年も合うちょらんが無理ぅしち病気でん　そりゅう思うと『在所に行きてーなえ』　ちなどかけした寝話しもしたけんど　何かたえーねー生返事じ寝ちしまう夫。一番頼りにしちょるにち歯がいいけんど　嫁じゃもん他人じゃき今でん他人扱い。薬も見兼ねち五助さんが話したんかん知れん。

残り湯にえーと夜中に入っち塗る薬に　涙がこぼるるごたるぬ母が見たら何とするじゃろうか。今更帰るわけにもいかんが　トツタンな『いつでん帰っちこいや』　心強く言うちもくれたが　そりゅ本気にしたんじゃ大人げねーき。我慢しち見るが他人扱いん味わいにゃ　悔しぅじ泣いてん泣けんごたる。

『膏薬張ったな』『うん　でーぶんゆうなったで』『そりゃよかったなーせつかろうがなえ』　それ以上は五助さんも言えんじゃつた。どげんこつー言わるるか解らんき。やんがち春にでんなりゃ苦労も報いらるるじゃろう。嫁ごん道は厳しいが姑も昔しゃ嫁ごじゃつたになえ。自分が苦労した…そりゅうさせとうねえーならいいがどげーじゃろう。娘にゃさせとうねーち思うがな。

★　ちょりゃ…ておれば。こたえんか…我慢出来んか。そりゅうそれを。さかしゅう…元気に。ちょつてん…していても。たえーねえ…希望がない。歯がいい…悔しい。えーと…やっと。トッタン…父親。でーぶん…だいぶん。せつかろぅが…なさけないだろうが。どげんこつー…どんな事を。やんがち…やがて。そりゅうさせとうねー…それをさせたくない。

長ぇ間荷物やら人ぅ運ぅじょると　面白い話やらムゲネー話やらにも出会う。優しい涙がこぼるるごたる話にん出会う。五助さんのそげな語りがなんか親しぅなっち　時にゃ身につまさるるような。ネッチスリガウしがおったりイテツクバルしやら。カラクジーち言ぅと根性がヨゴージョルんか　ヘッチコッチん返事ゅする。

『迎えに来たど』　ぶっきらぼうに言う声にたまがっち　『ちゃすまんなー』　嬉しい気持ちぅ他んしもおるき　アラワにゃ出せんき。女ごしんヨリアイん話が弾ぅじもう夜中になっちょる。帰りが遅いもんじゃき寝つかれん婿じょうが　提灯ぬとびーち迎えに来たらえーと　済んだ時じゃつた。

『今日はヨセギッチ　クエトぅゆうした』『ひずかったな竹ぅへしおっちあたで　したき無理じゃつたんじゃな』『へっちこっちなら大事じゃつたが』『コアエとトッパイがあったじゃろ』『母じようがつごーゆうしよったごたる』　バラバラ帰るしが影がこんもーなっち　自分どーんじょうになった。

汗が出たノコギンぬ脱ぎ捨てち来たんか　オドロクセーごたる。頭ぅワシワシかいたら横風んやつが　ホータンぬこさいじ通つた。『寒いこたーねーか』『いんげ』言葉少のう返事したらじっと肩に回した手。じーんと涙がこぼれそうな刹那　幸せぅかみ締めた。心ん中にぽーと温もりが入りくーだよーな。

何んか言いたげな男の体温が女の姿体を　潤おわするごたる夜のしじまに久しぶりん二人連れ。『こんまま歩きてーな』『いいど』婿じょうも甘えてーんか相槌ぅ打った。じっと握った手がゴツンとしちょる。荒れた手先にそれが触ると電気が走るごたる　情愛が疼くんか母性本能がめらめらと燃ゆる。普段なら夜なべ仕事んあと片付けしち　遅風呂に浸かる頃じゃが目が冴えち　若がえったごたる気持ちになっちしもうた。

迎えに来た夫　★　ムゲネー…可哀相。そげな…そんな。なんか…など。ネッチスレガウ…右と言えば左と言う。イテツクバル…返事に困る。カラクジー…手を貸せ。ヨゴージョル…曲がっている。ヘッチコッチ…あちらとこちらが反対。たまがった…驚いた。ちゃー…どうしょう。他んしもおるき…他の人も居るから。よりあい…会議。もんじゃき…ですから。とびーち…灯して。えーと…やっと。ヨセギッチ…少し無理。クエト…壊れた。へしおっち…曲げて折る。あたで…急に。こあえ…小麦粉利用の炒め物。トッパイ…豆腐。バラバラ…まちまちに。ノコギン…野仕事着。オドロクセ…臭い。わしわし…がりがり。ほーたん…頬。こさじ…素早い動き。こたー…事は。いんげ…いいえ。こんまま…このまま。いいど…いいですよ。甘えてーんか…甘えたいのか。

二人んそぞろ歩きも月明かりに影が長ぅなった。『病気しなんなえ』　優しい問いかけにドキットした婿じょうが　『お前こす無理うすんなや長生きせにゃ』　そげなこつー言われてん今ん暮らし方は　あまりにも旧態依然の成り行き。いつまでん親が権力振り回しち　何の口出しも出来んき働くばっかりん毎日。こいさんごつー2人じ甘えてーごたるんも久しぶり。

寝床に入っち寄り添い求められてん　親が障子越しに寝ちょるとなかなか思いも叶えられん。『くたびれた……』『……』　そん後はため息まじりん息づかいじ　今夜も時が流れち行く農村の夜。いつになったら自由な心んゆとりが　潤いが出来るんじゃろうか。親ん顔がふっと浮かんじ苦悶のまま消えた。私ゃ大丈夫じゃきと声にこそ出さんが。

『夕べは遅ぅかったのー』　朝飯どきになると親がさらゆるのも親しみが　憎しみが　いやがらせが　そげな意味が取りようじゃどげな解釈にでん出来る。『皆が意見が多いもんじゃき』　それだけ言うと片付けを急いだ。相手ぅしよると昼間家じゆっくりする親は　いいけんど今日ん仕事ががいと待っちょる。

それが気に要らんのか『どげん話が弾んだんか』『……』　それきりになったもんじゃき　誰か遊びくると嫁ごん話に輪をかけち話が弾むじゃろう。他所んしにゃ褒められてん又それが憎しみに変わる事んあるんが舅　姑根性。嫁は娘ん代わりちなし思わんのかち　簡単にゃ割り切れん家庭問題。

迎えに来ちくれち二人じ束ん間んそぞろ歩き　夢んような一時が心ん中ぇたまっちょつたモヤモヤぅ　ひったくっちくれたごたる。『あんた夕べはおーきに』『やー』　婿じょうがてれくせそーに笑う横顔が　これから生涯連れ添うんかち思うと　頼もしいごたる気もしち来た。じねーと暮らしも出来んけんど幸せ人生じゃろうち。

★　もんじゃき…ものですから。がいと…沢山。どげな…どんな。もんじゃき…ものですから。ひったくっち…引き寄せ集めて。夕べ…昨夜。おおきに…ありがとう。やー…なに。かちのかと。ごたる…ような。じねーと…自由な。

親ん威厳があった時代にゃそげな習慣の中じ　暮らしが営まれち来た。女は子供を生む事と労働力としち　結婚の美名に隠した働き手を貰う根底もあった。自分の娘もそげな立場にあるんじゃき　親は娘ん交換ち理解すりゃいいが　肉親と他人じゃ考えも違うちょつた。それが嫁姑問題としち時にゃ微笑ましく　時には悲運に泣く人も少なくなかった。迎えに来ちくれた嫁ごはそん点じゃまあ　幸せん方じゃつたんかん知れん。一部現在使われない語句を方言だけに使用しました。

諺　銘言あれこれ

人が叱られている時は自分も叱られている　と思え。それは人には短所があるように　自分にも短所があるからだ。

後ろから叩かれたり　いじめられたりするのは　あなたが前進している証拠である。

師にあって学ばざれば　去って後に悔いる。賢にあって交わざだれば　別れて後に悔いる。親に使えて孝ならざれば　喪して後に悔いる。

全ての善行は慈善である　君が兄妹に微笑みを与えるのも　迷える人に道を教えるのも　盲人の手を引いてやるのも　道に横たわる石を取りのどいてやるのも　喝する物に水を与えるのも　全く貴とい慈善である。故に慈善は決して富める人のみの所有ではない　貧しい者でも持つことの出来る　唯一の財産である。

美しき妻の魅力は短い　よき感化の母は永続する。

葉末に光る一滴の露にも金剛石の美しさがある。汗にまみれたる農夫の顔には華やかな王冠と　威力を競う輝きがある。

人は心が愉快であれば終日歩いても　なお倦まないが　心に憂いがあれば僅か一里にして倦む。人生の航路もこれと同様で　人は常に明るく愉快な心をもって　人生の航路を歩かねばならない。

妻は青春の恋人　壮年の伴侶　老年の保母である。

沈黙と謙遜とは女にとつて　最上の飾りである。

大倉果語

《つ》 つづら　植物のつるの一種
つがる　性交する
つーてんかん　おもしろおかしい
つっかけ　急に
つんぐりかやす　まとめてかやす
つれのう　連れ添う
つーじいく　飛んで行く
つくろう　修理する
つくれんかわ　つまらぬ事を
つぼ　庭
《て》 てまもどし　加勢のお返し
てまがい　加勢しあう
でれん　出られない
でちみよ　出てみなさい
てみず　手がやっと湿る水
てー　低地の広い場所
でんしんばしら　電話柱
でんきんばしら　電柱
でけそこなう　不出来
てんこぼん　天気にさらされる
でけしこ　出来る範囲
でべそ　出たがり　どこにでも顔を
《と》 どれんこれん　どれもこれも
どれでんこれでん　あれもこれも
どしこ　どのくらい
とーまいぶくろ　麻袋
どきんこきん　どこにもかしこにも
とらまゆる　捕まえる
とーてん　とても
とっちらかす　そこらを散らかす
とんつきにきー　捕まえにくい
とぼくる　素知らぬふり

	とってん	とても
	どびん	土で作った急須
	とぼるる	灯せる
	とぼせ．	灯しなさい
	とーみー	選別農具
	どんどん	早く急いで
	とりやいこ	取りあいをする
	とーめ	近くが見えにくい
	とんちーち	人に添い捕まえて
	となりんし	隣の人
	とほずもねえ	予想もしない
	とわず	冗談
	ときのめ	時の間に
	どちゃみち	どぅせなるように
	ときーにゃ	時には
《な》	なべすけ	鍋の下敷き
	なきしょぼくる	泣き涙を流す
	なーもし	尋ねますが
	なんしい	何事ですか
	なんちゃ	すぐに
	なっちょらん	だめですよ
	なんでんかんでん	あれもこれも
	なんかなし	とにかく
	ながのーじ	長くなってしまい
	なきべそ	泣いて顔が悲しい
	なかうどぐち	調子のよい攻め言葉
	なんなら	なんでしたら
	なりふり	風体も構わず
	なる	実る　成功
	なげしのゆうばれ	梅雨の夕方天気は晴に

《に》	にーれ	眠れ
	にーらする	眠らせる
	にわる	煮て柔らかく
《ぬ》	ぬれしょぼ	濡れねずみ
	ぬるまゆにはいったごたる	のんびり出来る
	ぬじる	べったり塗る
《ね》	ねぶち	竹の根っこ
	ねじゅうかくる	ねじを巻く
	ねじきる	ねじれて切れる
	ねぶちー	根性がひどい
	ねま	寝室
	ねれもん	濡れ物
《の》	のー	呼ぶ言葉…親しい
	のずーうとーちとおる	美味しく楽しく食べる
	のおとこ	苗代
	のーや	親しく　でしょう
	のさる	運命
	のーならけーち	なくならせて　失う
	のりよ	乗りなさい
	のせなー	乗せて下さい
	のけ	よけてください
	のりたがる	乗りたい希望
	のらせちゃる	乗らせてあげよう
	のせ	乗せる
	のーかこよみ	百姓に便利に作った暦
《は》	はっけくしゅう	いろいろ物知り
	はりやぶる	無理に入れて破れる
	はじきわな	ばねを利用した罠
	はっちぼーず	物貰い
	ばばごしき	老婆が集まって会話
	はたらきて	働く主な人たち

	はじけー	嫌われ物　皮膚に刺激を与える
	はぶたゆー	無理な事を言う
	はびこる	増える
	はおどぐ	てぐすね引く
	はなかり	はじめから
	はしごがわり	人を旨く使う
	ばらばらかえる	思い思いに帰る
	はらでん	腹でも
	はりやいこ	競いあう
	はしらまつ	盆の灯行事の仕掛け
	はえ	這いなさい
	はた	端っこ　他所から
	はな	端っこ
	はみ	牛馬のえさ
	はむる	はめる　罠にかける
	はよー	早く
	はるる	晴れる
	はんげみず	季節の大雨
《ひ》	ひね	時が過ぎた
	ひやっと	びっくり
	ひる	すます　放尿
	びやつう	山芋の頭の部分
	ひ	太陽　灯　干す
	ひやみず	冷たい水かかり
	ひきのべ	小麦の粉の調理
	ひきまめし	小麦の粉の調理にきな粉などまぶす
	ひぶくろ	火傷して皮膚が痛む
	ひこじる	びっこ引きながら
	ひっぱりひっぱり	関わりの結びつき
	ひっぱりたらん	希望が多くてかなえられない
	ひんむく	無理に剥く

	びんとーはつる	ほっぺたを叩く
	ひより	天気
	ひやい	利息
	ひょんひょんぐり	くぬぎの実
	びんたん	ほっぺた
	ひょいと	もしかすれば
	ひどくる	後ろにさげる
《ふ》	ふたりぶんくれなー	二人分下さい…子供の分も
	ふんなー	それなら
	ふしころ	愚痴を言う
	ふすべる	いぶす
	ふすぼらかす	いぶしかける
	ふすぶる	いぶす
	ふるる	ふれて回る
	ふせもん	繕い物　修理
	ふるう	選別する　ふるいなどで
	ふりまら	裸で男性性器をだしている
	ふりー	風呂に
《へ》	へんがかわる	急に死去する
	へっちこっち	あっちとこちらが反対
	へんつっぱり	変わり者
	へんじょこんご	いろろいろ意見を並べる
	へっけもっけ	はらはらする
	へちこむ	へこんでしまう
	へのつつぱり	役に立たない
《ほ》	ほきんはな	崖の端っこ
	ほげる	穴があいて　破れて
	ほいちかる	それから
	ぼやすけ	うっかりした者だから
	ぼうずる	痴呆になる
	ほど	背たけ

	ほがら	たばこの吸い殻
	ほん	本当に
	ほしもんざお	物干しさお
	ほんで	それで
	ほこほこ	暖かで嬉しい
	ほーたんずり	頬ずり
	ぼうぶら	カボチャ
	ぼんくら	知能が悪い
	ぼーずくりん	短くした頭の毛
《ま》	まー	いいじゃないの
	まわしみず	順番に時間で水を入れる
	まめす	まぶす
	まえだあらす	前の田んぼが荒れる不遇
	まんがいい	運がいい
	まめんて	豆を上らせる支柱
	まんまんさま	立派な人間　仏のよう
	まえくち	前から消化しながら　前繰り
	まえずり	前に出る
	まめせ	まぶす
	まどえや	元にしなさいよ　払え
	まめしだんご	まぶしたダンゴ
	まいる	降参した
	ままこんせんたく	てんきがよい日
《み》	みずばん	水の管理をする
	みちゃつた	みていた
	みちおそえ	ハンミョウ
	みいれ	付き物があると言われる
	みろーち	見て加勢

《む》	むがむちゅう	真剣に一心になる
	むしんしらせ	不吉な予感
	むかいまい	迎えに行く
	むくろ	羽根突きの羽につける玉
	むぎめしみそでー	麦飯に添える味噌
	むけまら	男性の性器の表情
	むっけくそ	気持ち悪い状態
《め》	めがさむる	目がさめる
	めおたずる	目の治療
	めんどしーこたーねえ	恥ずかしくはないか
	めって	めったに
	めがとぼるる	目利きの人
	めがさじい	油断がならない人
	めしょうがつ	目を楽しませてくれる
	めっそ	めったに
《も》	もと	始め
	もらいちゅうぶ	物をもらう癖
	もー	ほんとに
	もうやんがち	間もなく
	もみいた	洗たくに使う板
《や》	やといど	加勢してもらう人
	やっこさぐ	焼いてしまう
	やぶれしゅうげん	離婚
	やんめ	貰い目の病気
	やりくりあう	喧嘩しあう
	やせひこくる	やせてしまう
	やりてへふーで	勝手に自由にする
	やえー	やわい
	やらこ	ほんとに少しも
	やらと	ほんとに少しも

《ゆ》 ゆるーちくせ　気ままにしておけ
ゆきちーた　行きついた
ゆーなし　用事がない人
ゆー　・　よくも
ゆーなった　よくなった
ゆにいく　風呂に行く
《よ》 よいしょこ　おもむろに立つ
よんがよどし　夜通し
よーこれん　もうなかなかこれない
よー　親しい相手に　呼びかけ
よくしゅう　欲張り
よいんうち　よいの内に
よすみち　他所を見ながら
よど　宵祭り
《り》 りくつこぬる　理屈を言いつのる
《ろ》 ろくしゅもねー　根性が悪い
ろくなもんじゃねー　根性が悪質
ろくでんねー　悪者だから
《わ》 わりゃー　お前たちは
われもん　女性性器　娘
わしどま　私たちは
わりぎんたま　女性性器

ここじちょいと『一服』するかな　野津原村と今市村が合併した昭和３４年頃ん　議員さんたちん横顔…たかさきちょうま、くどうはせまる、あべゆたか、ふくおかたもつ、いくしまたかし、やまさきしょうこう、こいではやし、あいざわひさみ、おのらくま、くどうひでお、はたのたかし、かいえいま、いけべただお、かわのちから。

２０年前の議員さんたち…相沢久己、小出直人、奈須健三、天野幸人、森永清弘、西本三二、飯倉壇、田浦清、宮成幸雄、森下常夫、後藤幸徳、河野真雄、高崎善造、岩永勝…昭和５４年です。

人生８０歳まじ生きたら２９２２０日。８２歳なら３００００日１００歳まじ生きたら…３６５００日にもなるんで。

ひらがな書きは　こ　め　と　ら　る…は小さく書き　し…の字は大きゅう書くと美しぅじ品がいい。

大工スズメは軒じ泣き　左官うぐいす谷じ泣く…仕事ん難しさと鳥ん居場所がゆうわかる。

鶴崎じ働いち大分じ勉強しち別府じ遊べち言う。

あんたん生まれた日が解りゃ　曜日じ運勢も違うごたる。全部じゃねーけんど当たるも　外れも運だめし。

月曜日…ファイトマン　積極性があっち物事に飛び込み自主性に強い。行き過ぎん失敗もあるけんど同じ個性の人かる　信望があるし努力が高ぅ買わるる。気短かいしもあり内向性んしもある。

火曜日…明りい性格世話好きじ損ぬするが　得に結びつく。影の力持ちじ人に好かるる。正しい事が好きじ数字に強い経済家。

水曜日…消極性　自然に恵まるるが油断じ大切なものぬ失うち。人ん力じ実力ぅ発揮するき　そげな支えがありゃ素晴らしいごたる。美人型が多いし芯は強い。

木曜日…前半は苦労するけんど後半は安定。人ん力じ育ち人ん長にもなる。女性に弱いが趣味を生かす事や　付き合い上手がいいごたる。

金曜日…経済に恵まれち苦労ん多いに打ち勝つ。乗り切りゃ幸福にも結びつく。男性に弱いが実行力と正直じ　子供かる大事にさるる。

土曜日…平凡なしあわせ　人ん羨やむ成功。友達つきあいを上手にすること。希望が叶えられる可能性が強い。家庭円満型。

日曜日…内向性じっくり考ゆる力。むだ足ぅふまん。出世ん早い遅いがあるけんど　大けな失敗がねえ。人に好かるる計画性ん持ち主。

さぁどげーな　ひょいと当たっちょりゃ『よかったな』　ひょいと違うちゃ言うしは　いい面ぬ取り入るる工面すりゃいんじゃねぇ。人間なそんしが最後ん時に始めち　『よかった悪かった』ん判断を人がつけちくるるもん。『微笑みに勝る心ん化粧はねえ』　ち言うごつ　世の中なるようにしかならん。心に化粧しち皆が助けあい支え合うんなら　たった一度きりん人生それも幸せじゃねぇ。

昭和５５年《２０年前》のメモかるちょこっと　読んでみます。うろこ雲が出た次ん日は雨か風。朝雨にゃ傘いらず。暑さ寒さも彼岸まじ。朝焼けはあめ夕焼けは晴。落ち葉が早けりゃ雪も早い。冬中ん雷ゃ夏ん日照り。旅に出たら生水飲むな《中味の含有量が違うから》。風邪を引いたら汗を出せ《肌着を取り替ゆる》。酔いさましにゃ柿ぅ食え。大豆は畑ん肉。畳は目にそっち掃け。包丁１０年塩味１０年。白は左赤は右。祝い事は遅い方がよい。祝い言葉は３分でも長い。戸障子は片手で《両手より美しい所作が生まれる》。

伝承民話語り部

△△お礼にくれたナンテン△△

『こげな影じ食べるんじゃ　寄っちょくれ狭くるしいが』　娘が四辻ん木の影じトキぅ開いちょる　僧に声ぅかけた。『有り難う　世話をやかせるからここで』　両手で合唱しち皺ん顔に疲れた風体を。なんぼなんでんち思うたが無理も失礼　お茶を盆に乗せち運ぶと差し出えた。頭を恭しぅ下げると皺だらけの手で受けた。

白髪ん頭も薄くなっちしょわーねーんかち思う。旨そうに食ぶるぬー見ちょると　『あんた幾つ』『１５です』『優しいですな　何か不自由はないですか』『……私　いいえ』『そう』　黙々と食べた僧は茶碗を頂いち返すと　『困った事があればこれを』白い包みを渡した。中にはナンテンの実が一粒入っちょつた。

やんがち杖を頼りにとぼとぼと　『世話になりました達者でな』ただそれだけ言うとすーとかき消すように。娘はナンテンの実を大事に神棚に供えた。父親に話すと『仏様がお前ん接待にご褒美にくれたんじやろう』　一人で頂くなー勿体ねーき撒くこちーした。村んしもそん話ぅ聞いちわしにも　そんうちー村に広がった。

今もこん地区にゃナンテンが一杯植えられちょる。難を転ずるとも言いアズキメシにゃきっと乗せちゃる…もしあたったらこの葉っぱを食べてちの心こめち。僧からん贈り物かんしれん。

★　こげな…こんな。狭苦しい…ほんとに狭い。やかせるから…世話をかけるから。なんぼなんでん…いくら言われても。しょわーねんかち…大丈夫ですかと。トキ…昼食。やんがち…間もなく。乗せちゃる…乗せてある。あたったら…食あたりしたら。

娘の優しい行いが薬にも環境美化にも　心の鏡を覗きこむような故郷の断面。

△△きなこオハギ　卵吸い物△△

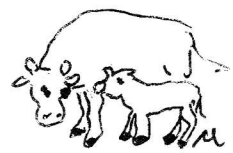
『牛見に来たんじゃがここんしはおろぅか』　見慣れんしが辻じ声かけられち感じ解った。『おるけんどチョイト待ちなー言うき』飛ぅじ帰ると裏ん戸をあけち娘に　『早ぅ卵吸い物んぬ炊きなー』
面くらうごたるにーもう牛小屋に来た。娘もドキドキしながら慌てち準備ぅ始めた。母親任せんつけが出るけんど助け船も。

『どげーな出来た』『……』『どうやっちみな』　味見しちどうやらいいわ……『まぁ上がっちょくれ　野に出ちょるが娘だけはおるき』『ほんなチョコットお邪魔しゅうか』　化粧もしちょらんが髪ぅときつけち娘が挨拶に出た。耳打ちしち『きなこオバギぅ作んなー』　不安がよぎるがとにかく出来た。

年寄りがうまい具合に時間ぬ引きのべーち　『まぁ出来あいじゃけんどよろしゅお上がり』『気の毒いなーよばりゅうか』居心地がいいんか娘が気にいったんか。『こりゃー旨ぇなーあんた作ったんな』『口汚しじ』　もじもじしち座っちょる娘は次ん言葉を待つ。『もう幾つになったんな』『１９です』　顔がぽーと紅色に。

何回か人が出入りしちお互いに話も進む。あん時ん甘いオハギがよかったんか　卵吸い物に優しさ奥ゆかしさを見つけたんか。娘も不安と嬉しさが交差しち夢んごたるが　隣んばぁさんの機転が効果ん手助けもしちくれた。『もうあん時ぁたまがった』『嬉しそうじゃな』　笑顔がこぼるる　腰ぅ延ばした昔ん美人隣同士。

★　ごたるにもう…おもっていたらすでに。どぅやっちみな…こちらに出してみなさい。チョコット…少しの間。しゅうか…しょうか。出来あい…俄かつくり。よばりゅう…頂こう。きなこオハギ…飯にきなこをまぶしたオハギ。
口汚しじ…粗末なもので。野に…田畑に。



△△待ちごえ△△

『なんか待ちゴエしちょくんな』『ひとウロイありゃ撒こうかち思いよるんじゃが』　作物がちっとでんゆう出来るごつ　前もっち肥しゅうやっちょくぬ『待ちゴエ』ち言う。優しいおもいやりん心がこもっちょる　百姓は天気と種と土に左右さるるき。せめてんも肥やしだけはやりたらんち言われんごつ。

響きんいい言葉に若い娘たちも『うっとどぅも誰か待ちごえしちくれんかなー』　ち期待と声がかかるぬ待っちょるが。『ぼちぼち嫁ごに行きとーなったんか』『いんげなよだきい』『そげんこつー言うちいいんか』『いいで』『よし　話があるけんど断わってんいいんじゃのー』『いんげ悪い　どこんしな』

そこは娘心に嬉しさと不安が交差もする。相手はどこん誰じゃろうか　目の前にあれこれ相手らしい顔が浮かんじゃ消ゆる。多すぎてん困るがとっとねーでん心配。『あん娘はかたわじゃねーんかえ』　なんか言われだすとそれこす　売れ残るき。言わるる時が勧めらるる時が娘も花盛りじゃろう。

★　ひとウロイ…ひと雨。さるるき…出来るから。言われんごつ…言われないよう。うっとどう…私たちは。待ちゴエ…世話して。行きとうなった…行きたくなった。いんげなよだきい…いいえ大儀な。そげんこつー…そんな事を。いいで…よいです。どこんしな…どこの人。とっとねーでん…全くなくても。かたわじゃ…身障者じゃ。それこす売れ残る…結局は縁が無くなる。

世話するしがあり待つ人がありゃ芽もださにゃ　花も咲かせにゃそれが世間ち言うもん。嫁に行くこたー苦労があってん幸せん出発かんしれん。待ちゴエん相手がよけりゃ万々歳じゃこと。

△△マユゲん殿様△△

『眉毛なんか目の上じてれっとしちょっち何の役にんたたん』日ごろかる愚痴んじょう言うしが今日もホメキよる。そん日は屋根ん葺き替ゅう加勢しよった。『いらにゃ剃っちしまやいいに』気短んこんしがここじ一服すりゃいいに　『ほんな剃り落とそう』　ちジョリジョリ剃っちしもぅた。

色白ん顔がいっそ男前になった。所どこりー付いた煤が気の毒んごつーも思えた。じゃがそれかるが大事ぅ作りたてた。にわか雨が降りでーたもんしゃき顔ん煤が流れち　眉毛がねーもんじゃきそんまま　目に流れくうじ来た。手じ押しぬぐーうとそんまま目に染みくーじ　痛みも走りでーた。こりゃ大事になつた。

さすがんツワモノもこりにゃ降参しちしもぅた。やっぱ眉んやたぁ何もしよらんち思うたら　とてん大事な役目ぅしちくれよった。えーとそりー気がちいたが今日は　どうにもならんこちーなっち。真剣悪かったち心じ謝ったそうな。やんがち生え揃うた眉毛に詫びぅ言いながら　これから大事にするとー。

★　てれっと…ぼんやりと。ホメキ…煩くはしやぐ。いらにゃ…無用なら。ここじ一服…ちょつと考えたら。作りたてた…誘いに乗って。ねえもんじゃき…ないものですから。流れくうじ…流れこんで。しよらんち…してないと。とてん…とても。えーとそりー…やっとそれに。やんがち…やがていずれ。

自然が授けてくれた五体には何一つ無用な物はない。感謝して大切に守り使わないとましてや取り除く取り去るなどは違反である。あるべき所にあってこそ役目も果たしている。形や姿は個人差があるがそれが又いいのでは。世の中もそんな組合せにより自然が保たれているもの。何一つ誰一人無用な者はいないのだから……

△△祭り餅ん里がえり△△

『お父さんが悪いち言うき祭り餅ぅ持っち里に行っちくりゃ』義母に言われちいっぺんは断わったが　本当は嬉しかった気持ちがモロに出る。『済みません　ちった甘えもあるんじゃろうけんど』忙しゅしこぅしち餅ん包みと見舞いん品を　本かるいにすると急いだ。里に帰る時ん荷は苦にならん重さ。

『そりゃすまんじゃつたな　でーぶんいいんで』　もう白いもんが増えた母が髪ぅ撫でながら『こいさ泊まってんいいんじゃろう』久しぶりん娘に何ぅ食べらしゅうかち　思いが駆けめぐる。父親も起けち茶の間に座ると　『ひじい事ぁねーか皆元気か　ちった痩せんじゃねーか　あれもこれも気になり苦になるごたる。

こげな親に育てられたき躾もあんまりしちょらん　じゃけんどそん場になりゃケックシャ人間なやるもん。婿じょうもいい男じゃき何とか続いちも来た。小姑が居り近所に義姉もおるき煩い事もあるが　人並みち旨い具合に合わせちも来た。里に帰ると別世界んごたるんも無利ゃねえ事と　あきらめもしちょる。

同級生ん近所に嫁入りしたしが遊び来た。『あんた元気じゃつたな』『さかしいで元気そうじゃな』『ねんじゅ喧嘩しちもうなえ』顔見合わせち大声じ笑うた。『どげーしよんな』『なんを』『またとぼけち晩な』『あれな　時々な』『ふんと毎晩じゃねーんな』『よだきいが　そげーするかえ』『うっと毎晩でんいいが』

★　行っちくりゃ…行ってくれば。ちった…少しは。しこうしち…準備して。本かるい…背中にかるう。でーぶん…だいぶ。こいさ…今晩。食べらしゅうかち…食べさせようかと。ひじい…ひどい。ケックシャ…わりと。合わせちも…あしらって。さかしい…元気。どげーしよるな…どう　してますか。とぼけち…知らぬ振り。　よだきー…大儀な。

気心んわかった二人ん話にゃ噴き出しそうな……『毎晩でんいいんな』『うっとー好きなほうかな毎晩でんいいが』『時々せんかやぁち言わるりゃ相手せんわけにゃ』『ありゅーち言うん』『するかち言うたり　するどち言うたり』『あんたからは言わんの』『言わんがえーおかしい事』『ちゃーお医者さんごっこゆうしたに』

まだ子供んころお宮じ近所ん男っ子たちと『遊びしながらヒョカツトお医者さんごっこになっちなえ』『あん時ゃあたられちなえ　うっとぅも相手のんあたったが』『愛らしかったごたったけんど』『今はデー分大きぅじ固ぅじ』『ゆう覚えちょるなーもう忘れたがうっとう』

どいもん葉っぱん露じ七夕ん字を書くとゆう出来るち　『朝早ぅ取っち書いたけんどそんわりにゃ　うもうならんなえなしかなぁ』『先生に卒業ん時戻したんじゃこと』『そうじゃつたなー先生も後じ教ゆるに困るき』　話が弾み又元に戻った。『赤ちゃんなどげーな』『まだじゃけんど』『早ぅ生まんとよだきゅうなるで』

『これかるは毎晩しなー』『毎晩え』『へりゃーせんきな　相手がそん気じゃねーとなえ』　しゅうか　しゅうえ　したな　したかしよった　したきー　しちよかった……摂理じゃが……同級生ん話にゃ将来ん夢もある。心配しあう年頃じ嫁ん立場や家庭の環境なんかも　思い通りに行かぬ悩みも。故郷には強い味方が支えち。

★　ありゅー…あれを。うっとう…私。どいもん…里芋の。うもう…上手。なしか…なででしょう。よだきー…大儀な。

隠す事のう何でん話せる友達は多ぅはないもん。それだけ幸せ者じゃろ。里帰りしち悩みもさらけ出えた時間は　親子以上に自分ぬ大切にしてくるる友情じゃろ。女ん悩みを打ち明け話を聞いちの人間関係は　物や金じゃ変えられん。父ん看病にかこつけた親友とん語らいにゃ心爽やか。

★★★　調査員のメモ帳から　★★　あの日あの時の回想　★★★

『おおとぶ』と方言……こん歳になると　昔んことんじょう　思出えちしまう。わしん家んすぐ下に『おおとぶ』ち言う淵があるんじゃけんど　こん淵じ　ゆう仲間と遊びよったもんじゃ。箱めがねを作り　木とガラスん隙間は　ローソクん蝋をたれーち固めち　カマスカやハエを『かなつき』じ突いち　なんぼでん捕れよったんじゃけんど。

こんまえん　休みに　ちょこっと淵に行っち見ち　たまがっちしもうた。淵に下る道もなんものうなっちしもぅち　人ん通つた跡形もねえ。水も少のうなっち　昔しゃおらんじゃつた鯉が泳いじょんのが見えただけじ　昔に戻りてーちいう気持ちがわいちきちしもぅた。

もう長えこつ方言調査会んメンバーに加えちもろぅちおるけんど　『おおとぶ』ん淵んごつ　人と人とん営みが　ねえなっちしまうんじゃろうか。気楽に話せる人じゃけん　方言じ話せることもあった。さみしいことじゃけんど　そん方言じ話あえる人がおらんごつなっちしもぅた。人と人とん心は　なんじ結ばれちょるんじゃろうか。金じゃろうか。物じゃろうか。損得じゃろうか。

つまづいちこくると　なしいこきー石があるんかち　すぐ権利んじょう言うち　なんか言うと責任とるんかち言う。なんにん言えんごつなっちしもぅたんじゃろうか。

方言じしゃべらるん人と人が　共生でくる世の中にしてえもんじゃち思うちょる。

★　小野寿祐　★

……

『むすめ遍路の菅の笠』……こないだ四国遍路に誘われち他んしと連れのーた。俄か雨うよけた菅の笠ん娘がすれがい際に笑顔じ頭をさげた。

『お疲れさん』　何か声うかけとーなる姿にどげな事情じ歩くんかうら若ぇ　仏に近づいて心ん安らぎぅ求めてーんか。そげな勝手な気持ちじゃあるめー歩く事の厳しさひどさは。本堂で手を合わせち般若心経を唱ゆる時　願い思いがちっとーでん叶うとすりゃー遍路道も無駄じゃねーんじゃろう。

親はどげな気持ちじ送り出し日毎気がかりん時間　へっけもっけしちょるんじゃろう。そん親にどげな答えをもつちいつ帰るんじゃろうか。８８寺とは遠く長え旅の空じゃけんど若さと心に決めた気持ちがやんがち　喜びん笑顔になっちくるりゃいいち見送った。今頃ぁ病気しちょりゃしめーか達者じ歩きよるか　目に浮かんだむすめ遍路ん菅の笠。

★　佐藤吉晴　★

……

『巡り合わせの幸せ人生』……大丈夫よ元気で　そげな返事がいつも帰っちくる心配させめーち。娘んごつ優しぅ心くばりしちくるるが厳しい仕事　家庭環境にも耐えちょるごたる感触が　ひよこっと言葉ん端に出ち慌てち打ち消す。不思議な人間関係の絆を大事に時にゃ怒っちみたりはげらしい態度にいら立つけんど　人間性が育ちいいんか豊かん心じ潜り抜けち中年になった。

たった一回きりん人生じゃきなるようにしかならん　そげな気質が物事い対応する英知に変貌するんじゃろう。こげんこたーどげー　得意顔じ持ちこんだ目新しい考えかたは　やっぱ若さが潜在しちょるき生きちょる。斬新な才能が年寄りにゃいい刺激剤にもなっち　自分がん歳まじ忘れさせちくるる。玄関に小首ぅかしげち『ただ今』　生まれた家に帰ったごたる遠慮んねー動作が　救わるるごたる空気ぅ巻き起こしち　『お帰り』ち思わず相づちぅ打つと　大声じ笑うた。

人ん出会いたー巡り合わせたー不思議なもん。助けられる人生と支えあう人生と　じゃき生きちょらるるんかん知れんが。

★　佐藤源治　★

語り継ぎたい方言の心　　甲斐英行

平成４年《１９９２》ヨダキーなーち思いながら　野津原方言調査会を結成しち　そん作業に９年あまり取り組んじ来ました。

『のつはるん方言歴史ガイド』　野津原方言集《前編　後編　こぼればなし》　も刊行。続いち続編５部発行を目標に　調査員一心一体になっち頑張っちよります。

方言集刊行じゃ町　町教育委員会んご協力ぅ賜り幸甚に存じています。又会員はそれぞれ持ち味ぅ生かしち　取り組む姿勢は調査の必要性がわかった　証とん受け止められます。ねんじゅう前向きな調査収拾が　失わるるごたる方言ぬ後世に伝承してーち　信念が一体となっち　させちおるんかん知れません。

『面白くもなき世の中を面白く済みなすものは心なりけり　善も悪も心一つ』　見えん心を大切にするこたー平和ともなります。一つん詩に『花に鳴く鶯　水に住む蛙の声　いずれが歌を詠まざりける』　ちウトーチョル。ケンドつまり鶯ん声も歌であり　鶯ん心ぅ歌うチョル歌じゃネーカナ。ソシチ水に住んじょるワクドん　ケロケロ鳴いちょる声も歌ジャローチ思う。これは日本人の感受性を決ちょるごたる。非常に重要な規定ち言うことじゃろう。

早い話が鶯の声を聞いて春の訪れを感じるのは　この時だけではなく　日本人が鶯の声を聞いて春を感じると共に　その声を愛する事は絶える事なく続いています。方言の心も絶える事のないよう見守りたいもの。調査員皆さんの心のふれあいを大切に　これりからも実りある調査を続け続編発行に　結びつけたいと念じています。

『生きがいも感じた７年間』　　赤星ヨシミ

方言調査に皆さんと取り組んで７年を迎えました。埋もれそうになっている方言　すでに使われていない方言などを堀起こしが出来て　２１世紀に引き継げることに喜びを感じています。

方言の持つ独特な温かさを失われつつある　結《ゆい》の心で復活するのではと　ひそかな期待も持ちながら　この年月をみんなと苦労しながら歩いて来ました。こうした中　故郷を離れて都会に出ていられる方々から　『大変懐かしい』と　お便りを頂き調査会員として　調査収拾した一人として大変嬉しく　感涙する事すらあります。微力な取り組みが故郷を離れて見て　初めてわかる故郷のよさと共に。

忘れかけていた方言に接したその人の　心の中には生まれ育った故郷の生活の中に　連連と生き続けて来た生活用語の方言が　あったのです　それにひさしぶりに出会ったのです。

予定の平成１５年発行の『続編№５』まで　皆さんと共に頑張って調査を　続けたいと思っています。そんな巡り合わせの人生に感謝もしています。

『心に残る方言の温かさ』　　利光節子

時代の変貌について行く事が大変な時世。そんな慌ただしい時だから使われてきた方言が　なでか懐かしく温かくそっと包んでくれる。やりとりする言葉の端々には人の心を大切にする　そんな底流が位置づけられてもいる方言。時には暴言のようにも聞こえるのに　時間が過ぎて見るとほんのりと　包容してくれるような生活用語でもあります。そんな調査をした幸せな７年間でした。

苦労多い時代にも貧富の差がないような　心くばりする方言には人の気持ちを大切にした　言葉の交差が隠されているような。方言がいつ育ちいつどこに行っても　土地の風土風習をしっかり抱いているようで　相手を気使う言葉の中には　物金では変えられない宝のような存在感もある。『洗うかえ』『もう食べたな』…なんと温かな言い回し…相手の気持ちを察する　心にくいまでの情愛がこめられているよう。目標到達は大変だけど思い出に残る　方言調査に参加して本当に有難いことです。

方言の温かさとロマンの世界……那須政子

方言調査ん声がかかっち　ちっとたまがったが役に立つんなら。調査にのめりくうじ８年　よきい人に加勢しちもろぅち　そん心ん暖けぇ優しい思いやり。相手ぅ大事にしちくるる　人間本来ん姿にも出会う。ふっとロマンの世界に誘われたりする　方言のよさなんかは　調査に参加しちみち　はじめち体験の味も満喫しました。

手前味噌じゃが素人集団の調査会が　編集しち冊子にまとめたぬぅ見ると　仄かな活字に自分どぉん努力ん片鱗も　垣間見る事が出来ち取り組んじよかった　自負心も育ちました。調査する時にゃがいとん人ん支援協力　寄せちくれた優しい思いやり　支えちくれた心くばりが　足跡ぅ残すに大けな役割も果たしちくれました。

勇気づけて下さった皆さんに　ご恩返しの為にも調査を続けて行く予定。記録が今後の調査される方たちの　役立つ資料にもなれば大変嬉しい事です。調査員に仲間入りして自分なりの　人生勉強の宝も取得しました。やがて消えるであろう方言が残せた　幸せ人生に頑張った今が何より生きがいでもあり　覚えた方言をより大切に使い温かい　人と人の交流に利用したいと思っています。こんな機会を与えて下さった皆さん　アドバイス助言苦言を頂いた皆さんに感謝しています。冊子発行に当たってご協力　ご愛読下さった皆様に厚くお礼を申しあげます。

……ご協力感謝しています。……

以上調査会員の『一口メモ』を掲載致しました。続編№３の発行まで辿りついたのも　ご支援ご協力ご愛読頂いた　皆様方のお影です。ボランティア活動で初期の目的である　平成１５年まで調査活動を続けて　続編№５《予定》まで発行　調査会を解散の予定にしています。最後まで温かいご支援頂ければこの上ない幸せです。

方言調査会　調査会員一同

あとがき

皆様方の温かいご支援ご協力により　『野津原方言集続編№３』が出来ました。今回は方言のよさを味わって頂くために　特に★印をつけてその意味を　簡単に併記しました。

◇　方言文化には主に子供の生活を中心に取り上げ
◇　ふるさとの唄　歌には野津原の土地　風土　人など盛り込んだ　多方面から見て題財にしたものを
◇　心に残る祭り風景には『清正公まつり』を　取り上げ４００年前にタイムスリップ　人と人との関わりに始まる故郷野津原の　人情と支え合い助け合う崇高な　心情を培う指針にもなった祭りの　原点から現在までのエピソートも
◇　心に残る故郷方言では　生活に関わり日常使われたものを
◇　伝承　民話　語りべには　今も残る古い話や言い伝えなどを２部にわけて
◇　ちょつと一服は　読み続けてくださった皆様の　お休みタイムの息抜き
◇　街道の人気者で頓知のある五助さんの途場　街道で見たり聞いたり眺めたりした　ひとコマひとコマを描写しながら
◇　方言単語は　新たに５００語を追加して取り入れ　また忘れかけた失うには惜しい生活用語の懐かしさも

そんな内容を素人づくりに素人が編集しながら　１００頁にまとめて収録しました。限られた時間　活動範囲　予算などの制約の中で皆が取り組んで　『残したい情熱』でまとめあげた　懐かしい生活用語の『方言集続編№３』です。

昨年別冊でまとめた小　中学生向けの『やさしい方言歴史ガイド』は　町教育委員会のご協力で旧肥後街道を　野津原に入り今市を抜けるまでの　歴史史跡　物　人などの幾つかピックアップして

方言の語りでまとめ　町内の小　中学生全員に贈りました。

ほとんど使った事のないであろう《無意識では使った事も》そんな方言に親しみを持ってこれから先　何かの機会に使って頂ければ　調査した私たちも幸せです。

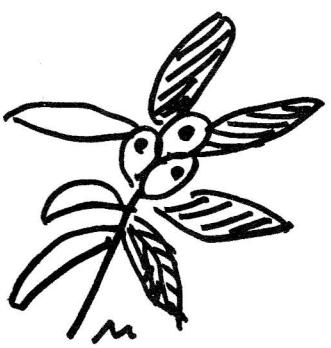
民謡は唄ではない『生活の声』である《竹内勉さん》とか　方言も言葉にこめられた生活用語《道具》なのです。ふとお互いが方言を使ってやりとりする時　人の気持ちが通じあうとすればそれは古くから大切に保存され大事に使われた　生活の絆でもありましょう。

謹んでご愛読に感謝致します。

……

『野津原方言集　続編№４』…《平成１４年４月発行》ご案内

１　心に残るふるさと方言
２　伝承　民話　語りべ
３　街道馬子唄《№１》物語
４　ふるさとの唄　歌
５　ちょつと一服
６　方言文化…《子供　女性》
７　心に残る…宇曾山物語
８　ことわざ　風習
９　伝承　民話　語りべ
１０　街道馬子歌《№２》物語



野津原方言調査会では続編№５…《限定１００冊で平成１５年４月》まで発行して　取り組み１２年間の調査に　終止符を打つ事にしています。ありがとうございました。